

新拠点ゾーンの整備に伴う自然環境調査業務委託

報 告 書

令和 7 年 3 月

中外テクノス株式会社

目 次

第1章 業務概要	1
1. 業務名称	1
2. 業務委託機関	1
3. 業務受託機関	1
4. 履行期間	1
5. 調査範囲概要	1
第2章 業務内容	3
1. 目的	3
2. 準拠する基準等	3
3. 調査項目および調査時期	3
4. 調査方法等	3
4.1 植物	4
(1) 植物相調査	4
(2) 植生調査	4
4.2 動物	5
(1) 小動物調査	5
(2) 鳥類調査	6
(3) 昆虫類調査	7
5. 重要な種の選定基準	9
第3章 調査結果	12
1. 植物	12
1.1 植物相	12
(1) 確認種	12
(2) 重要な種	19
1.2 植生	23
(1) 植生	23
(2) 大径木	27
2. 動物	41
2.1 小動物	41
(1) 哺乳類	41
(2) 爬虫類・両生類	43
2.2 鳥類	47
(1) 確認種	47
(2) 重要な種	50
2.3 昆虫類	52
(1) 確認種	52
(2) 重要な種	62

第1章 業務概要

1. 業務名称

新拠点ゾーンの整備に伴う自然環境調査業務委託

2. 業務委託機関

松戸市 都市再生部 松戸駅周辺整備振興課

〒271-8588 千葉県松戸市根本 387-5

TEL : 047-366-7086 FAX : 047-704-4050

3. 業務受託機関

中外テクノス株式会社 関東環境技術センター

〒267-0056 千葉県千葉市緑区大野台 2-2-16

TEL : 043-295-1101 FAX : 043-295-1110

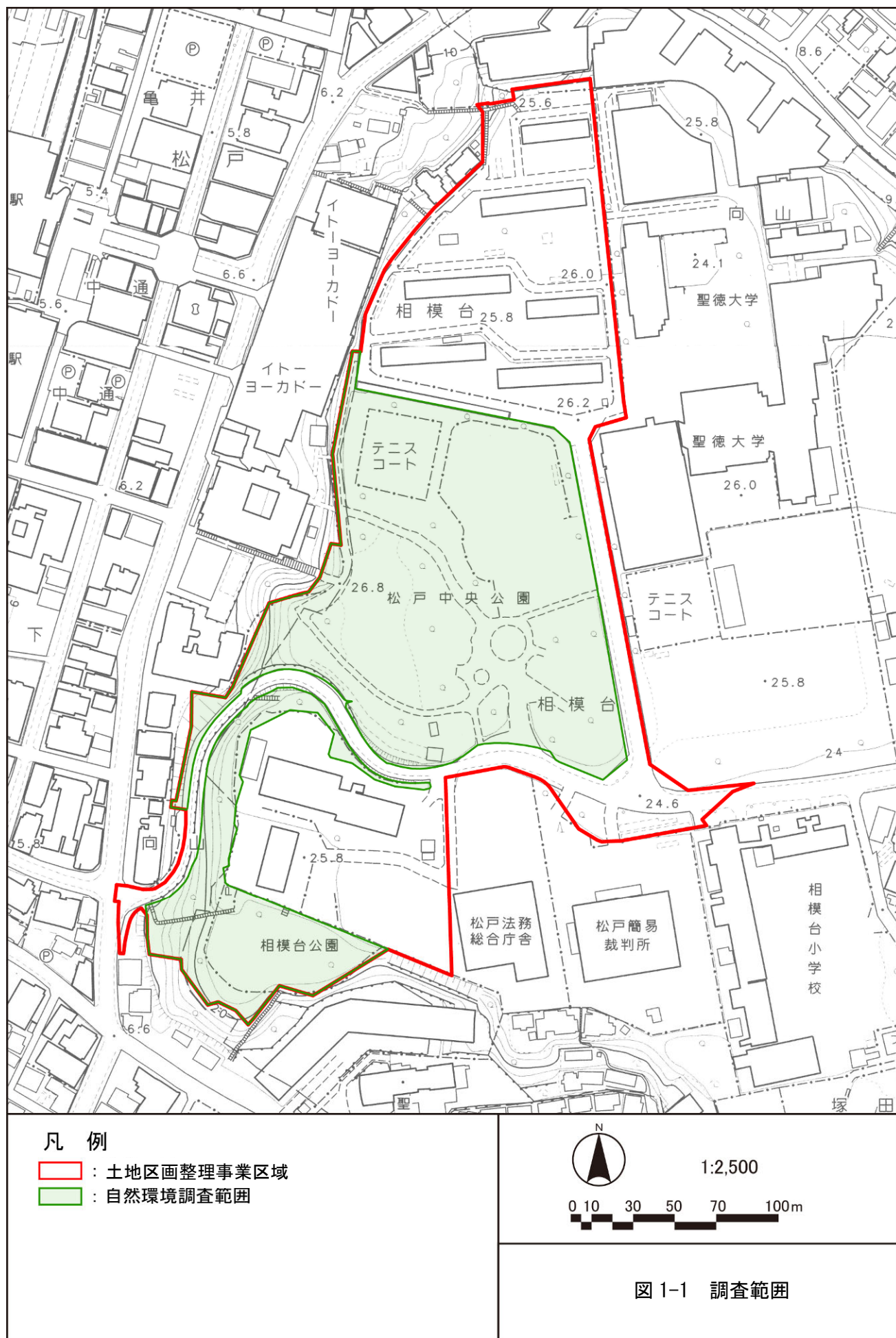
4. 履行期間

令和6年5月22日から令和7年3月28日まで（311日間）

5. 調査範囲概要

松戸駅東側の新拠点ゾーンの約2.97haとした。

位置図を図1-1に示す。



第2章 業務内容

1. 目的

本委託は、新拠点ゾーンにおける土地区画整理事業の実施にあたり、自然環境に関して必要な事項を検討する基礎資料として、当該地区の自然環境の現況を把握することを目的とした。

2. 準拠する基準等

本委託の実施にあたっては、委託契約書及び仕様書によるほか、関係法令に基づいて実施するものとした。

3. 調査項目および調査時期

調査項目および調査時期は、表 2-1 に示すとおりとした。

表 2-1 調査項目

調査項目		調査内容	調査時期
植物調査	植物相調査	現地調査による植物相の把握	春季調査：令和 6 年 5 月 30 日 夏季調査：令和 6 年 7 月 29 日 秋季調査：令和 6 年 10 月 30 日、31 日 早春季調査：令和 7 年 3 月 13 日
	植生調査	現地調査による植生及び大径木の位置把握	秋季調査：令和 6 年 10 月 31 日、11 月 1 日
動物調査	小動物調査	現地調査による哺乳類相、爬虫類相、両生類相の把握	春季調査：令和 6 年 5 月 29 日、30 日 ※センサーカメラは 5/28-30 夏季調査：令和 6 年 7 月 23 日、24 日 ※センサーカメラは 7/23-25 秋季調査：令和 6 年 9 月 30 日、10 月 1 日 ※センサーカメラは 9/30-10/2 冬季調査：令和 7 年 1 月 15 日、17 日 ※センサーカメラは 1/15-17
	鳥類調査	現地調査による鳥類相の把握	春季調査：令和 6 年 5 月 29 日 夏季調査：令和 6 年 7 月 24 日 秋季調査：令和 6 年 9 月 30 日 冬季調査：令和 7 年 1 月 17 日
	昆虫類調査	現地調査による昆虫類相の把握	春季調査：令和 6 年 5 月 29 日、30 日 夏季調査：令和 6 年 7 月 24 日、25 日 秋季調査：令和 6 年 9 月 30 日、10 月 1 日

4. 調査方法等

調査は以下の手法により実施した。なお、現地調査で確認された重要な種（P9 参照）については、その位置と個体数、生育・生息環境等を記録した。また、可能な範囲で重要な種や代表的な種の写真撮影を行った。

各調査の調査地点等は、図 2-1 に示すとおりとした。

4.1 植物

(1) 植物相調査

調査範囲を任意に踏査し、目視観察により確認された種を記録し、植物相を把握した。

なお、現地での同定が困難な種については、必要に応じて標本を採集し、持ち帰り同定した。なお、調査対象は、維管束植物（シダ植物、裸子植物、被子植物）とし、対象種は自生種（在来種その他、外来種、逸出種を含む）と植栽種（園芸草本類は除く）とした。

また、補足情報としてそれらの区分（植栽・外来・逸出等）をリストに記載した。

(2) 植生調査

植物社会学的方法(Braun-Blanquet 法：1964)に準じた植物群落調査を実施し、相観植生図を作成した。また、大径木調査を実施し、生育状況を把握した。大径木は、「千葉県環境影響評価技術細目」に従い、原則として胸高直径 50cm 以上の樹木について、樹種、樹高、胸高直径、確認位置を記録した。



写真2-1 植物調査風景

4.2 動物

(1) 小動物調査

ア. 哺乳類

(ア) 任意観察

調査範囲内を任意に踏査し、目撃法、フィールドサイン法（足跡、食痕、糞、巣穴等）により出現種の確認を行い、出現種の位置、確認時の状況、環境、個体数等を記録した。なお、犬、猫等については人間由来（ペット）の種であることから本調査結果から除外した。

(イ) 自動撮影

哺乳類を対象としてセンサーカメラによる自動撮影を行った。センサーカメラは図2-1に示す4ヶ所において2昼夜(3日間)、4季設置して確認された出現種を記録した。



写真2-2 センサーカメラ (S-1)



写真2-3 センサーカメラ (S-2)



写真2-4 センサーカメラ (S-3)



写真2-5 センサーカメラ (S-4)

イ. 爬虫類・両生類

調査範囲内を任意に踏査し、目撃法により出現種の確認を行い、出現種の位置、確認時の状況、環境、個体数等を記録した。

(2) 鳥類調査

鳥類を対象に以下の調査を実施した。

ア. ラインセンサス

調査範囲を対象に環境を考慮した図 2-1 に示す調査ルート（1 ルート）を、時速 2km 程度で歩行しながら、調査ルートから片側 25m（ルートを中心とする 50m）の範囲内に出現した種、位置、個体数、行動、繁殖の可能性等を記録した。ラインセンサスは早朝に 1 回実施した。

	
写真2-6 ラインセンサスルート （松戸中央公園）	写真2-7 ラインセンサスルート （松戸中央公園）
	
写真2-8 ラインセンサスルート （主2-68号 通称S字道路）	写真2-9 ラインセンサスルート （相模台公園）

イ. 任意観察

ラインセンサス後、調査範囲を任意に踏査し、出現種、個体数、行動、環境等を記録した。

(3) 昆虫類調査

昆虫類を対象に以下の調査を実施した。

ア. 任意採集

調査範囲を任意に踏査し、目視観察及び任意採集により確認された昆虫類を記録した。
なお、任意採集は環境に合わせて見つけ採り法、スウィーピング法、ビーティング法を用いた。

イ. ベイトトラップ調査

任意採集では確認しにくい地上徘徊性の種を対象に、調査範囲内の樹林地や草地等において誘因餌を入れたプラスチックコップを埋設し、落下した昆虫類を採集した。

設置個所は図 2-1 に示す 2 ヶ所とし、1 カ所あたりの設置個数は 10 個を、設置翌日に回収した。

なお、誘因餌には、腐肉と焼酎入り清涼飲料水を用いた。



写真2-10 ベイトトラップ地点 (B-1)



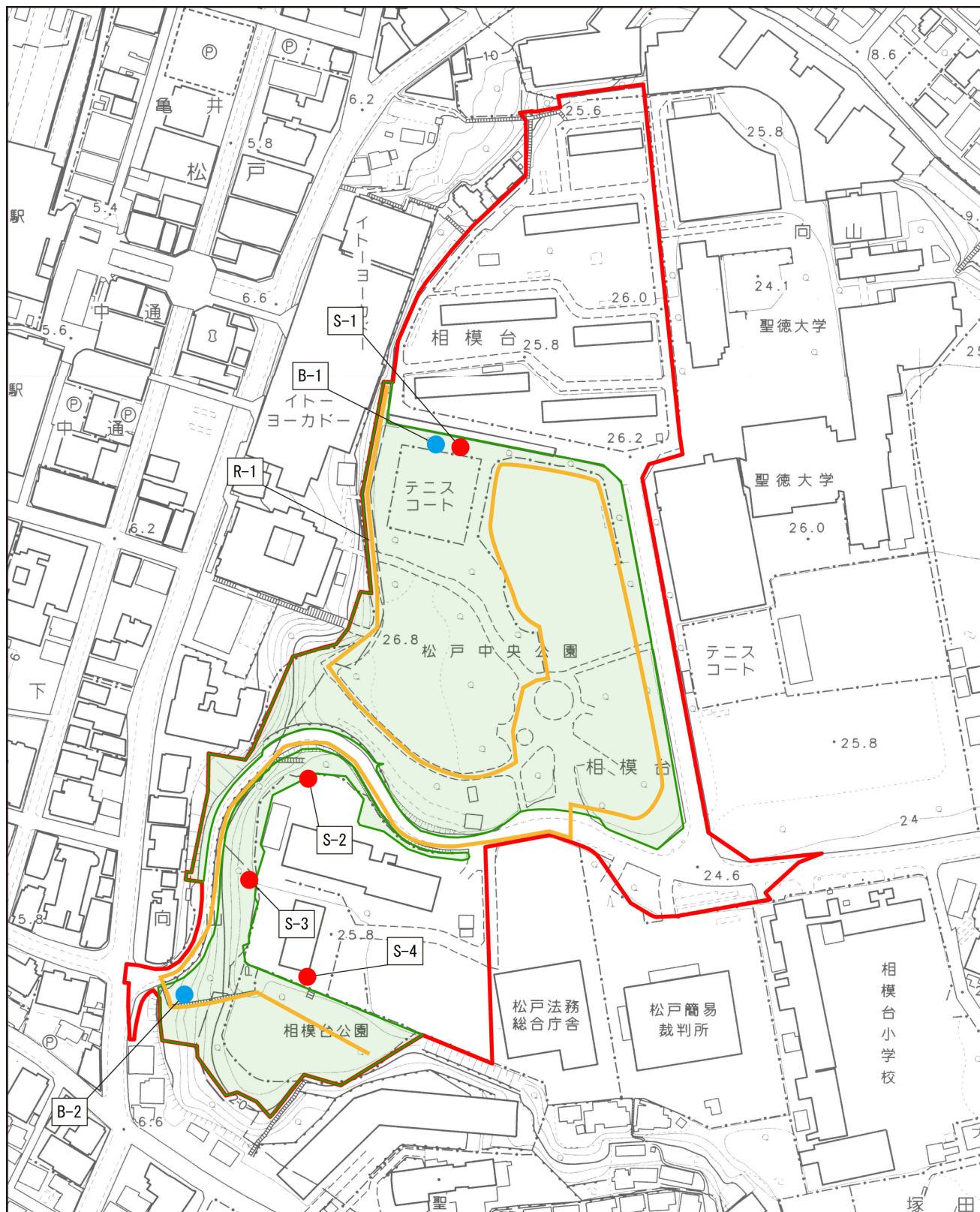
写真2-11 ベイトトラップ地点 (B-2)



写真2-12 ベイトトラップ (腐肉)



写真2-13 ベイトトラップ (清涼飲料水)



凡 例

- : 土地区画整理事業区域
- : 自然環境調査範囲
- : センサーカメラ位置 S-1. 2. 3. 4
- : ラインセンサスルート R-1
- : ベイトトラップ位置 B-1. 2



1:2,500

0 10 30 50 70 100m

図 2-1 調査地点等

現地調査で確認された種について、表 2-2 に示す選定基準を基に重要な種を抽出した。各選定基準の詳細は表 2-3 に示すとおりである。

番号	資料名	選定基準
①	法 『文化財保護法』（1950 年 5 月 法律第 214 号）	特別天然記念物(特)
		天然記念物(天)
②	令 『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』（1992 年 6 月 法律第 75 号）	国際希少野生動植物種 国内希少野生動植物種 特定第一種国内希少野生動植物種 特定第二種国内希少野生動植物種 緊急指定種
③	文 献 『環境省レッドリスト 2020』（2020 年 環境省） 【維管束植物】 【哺乳類】【鳥類】【爬虫類】【両生類】【昆虫類】	絶滅(EX)
		野生絶滅(EW)
		絶滅危惧ⅠA類(CR)
		絶滅危惧ⅠB類(EN)
		絶滅危惧Ⅱ類(VU)
		準絶滅危惧(NT)
		情報不足(DD)
		絶滅のおそれのある地域個体群(LP)
④	『千葉県の保護上重要な野生生物』 千葉県レッドリスト 植物・菌類編（2023 年改訂版） （2023 年 3 月 千葉県自然保護課） 千葉県レッドリスト 動物編（2019 年改訂版） （2019 年 3 月 千葉県自然保護課）	消息不明・絶滅生物(X)
		野生絶滅(EW)
		最重要保護生物(A)
		重要保護生物(B)
		要保護生物(C)
		一般保護生物(D)
		保護参考雑種(RH)

表 2-3(1) 選定基準の内容

番号	選定基準	内容
①	法令	『文化財保護法』(1950 年 5 月 法律第 214 号)
	特別天然記念物 (特) 天然記念物 (天)	・天然記念物のうち、世界的にまた国家的に価値が特に高いもの。 (1) 日本特有の動物で著名なもの及びその棲息地。 (2) 特有の産ではないが、日本著名の動物としてその保存を必要とするもの及びその棲息地。 (3) 自然環境における特有の動物又は動物群集。 (4) 日本に特有な蓄養動物。 (5) 家畜以外の動物で海外よりわが国に移植され現時野生の状態にある著名なもの及びその棲息地。
②		『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』(1992 年 6 月 法律第 75 号)
	国際希少野生動植物種	国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種 (国内希少野生動植物種を除く。) 国際希少野生動植物種に係る条約・協定について、次のいずれかの国際条約又は協定に基づき定められた種を国際希少野生動植物種として指定。 (ア) 我が国が締結している渡り鳥及び絶滅のおそれのある鳥類並びにその環境の保護に関する条約又は協定 (二国間渡り鳥等保護条約) に基づき、相手国から絶滅のおそれのある鳥類として通報のあった種 (イ) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約) 附属書 I に掲載された種
	国内希少野生動植物種	本邦における生息・生育状況が、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じている種で以下のいずれかに該当するもの (亜種又は変種がある種は、その亜種又は変種とする)。 ・個体数が著しく少ないか、又は著しく減少しつつある種。 ・全国の分布域の相当部分で生息地等が消滅しつつある種。 ・分布域が限定されており、かつ、生息地等の生息・生育環境の悪化又は生息地等における過度の捕獲若しくは採取により、その存続に支障を来す事情がある種。
	特定第一種国内希少野生動植物種	商業的に個体の繁殖をさせることができ、かつ、国際的に協力して種の保存を図ることとされていない国内希少野生動植物種であって、政令で定めるもの。
	特定第二種国内希少野生動植物種	国内希少野生動植物種のうち、主要な生息・生育地が消滅・悪化しつつある一方で、個体数が著しく少ないものではなく、かつ繁殖による個体数の増加が見込まれる種が指定されるもの。
	緊急指定種	緊急指定種は、新たに発見された種や絶滅したと思われていた種が再発見された場合など、特にその保存を緊急に図ることが必要な場合に捕獲などを禁止する緊急的な措置。
③	文献	『環境省レッドリストカテゴリーと判定基準(2020)』
	絶滅(EX)	・我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。
	野生絶滅(EW)	・飼育・栽培下でのみ存続している種。
	絶滅危惧ⅠA類(CR)	・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
	絶滅危惧ⅠB類(EN)	・ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	・絶滅の危険が増大している種。 ・現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
	準絶滅危惧(NT)	・存続基盤が脆弱な種。 ・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。
	情報不足(DD)	・評価するだけの情報が不足している種。
	絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	・地理的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。

注) 番号は表 2-2 に基づく。

表 2-3(2) 選定基準の内容

番号	選定基準	内容
④	文献	『千葉県保護上重要な野生生物』(2023 年 千葉県自然保護課)
	消息不明・絶滅生物 (X)	・かつては生息・生育が確認されていたにもかかわらず、近年長期（およそ 50 年間）にわたって確実な生存情報がなく、千葉県から絶滅した可能性の強い生物。
	野生絶滅 (EW)	・かつては千葉県に生息・生育していた生物の種類が、野生・自生では見られなくなったにもかかわらず、かつて千葉県に野生していた個体群の子孫が、飼育・栽培などによって、維持されているもの。 ・特に埋土種子や埋土孢子などから再生した個体がありながら、本来の自生地では環境の変化によって生息・生育が維持できない状態の生物。
	最重要保護生物 (A)	・個体数が極めて少ない、生息・生育環境が極めて限られている、生息・生育地のほとんどが環境改変の危機にある、などの状況にある生物。 ・放置すれば近々にも千葉県から絶滅、あるいはそれに近い状態になるおそれがあるもの。
	重要保護生物 (B)	・個体数がかなり少ない、生息・生育環境がかなり限られている、生息・生育地のほとんどで環境改変の可能性がある、などの状況にある生物。 ・放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、近い将来カテゴリ A への移行が必至と考えられるもの。
	要保護生物 (C)	・個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境改変の可能性がある、などの状況にある生物。 ・放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、将来カテゴリ B に移行することが予測されるもの。
	一般保護生物 (D)	・個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境改変の可能性がある、などの状況にある生物。 ・放置すれば個体数の減少は避けられず、自然環境の構成要素としての役割が著しく衰退する可能性があり、将来カテゴリ C に移行することが予測されるもの。
	保護参考雑種 (RH)	・自然界において形成されることが稀な雑種であって、個体数が著しく少なく、分布地域および生育環境が著しく限定されているもの。

注) 番号は表 2-2 に基づく。

第3章 調査結果

1. 植物

1.1 植物相

(1) 確認種

調査の結果、表 3-1 に示す 95 科 318 種の植物が確認された。

確認種は調査範囲が主に公園であることから植栽種や帰化植物が多いが、県内の二次植生に生育するような種も確認された。樹林性の植物では、タブノキ、シロダモ、ハリギリ、ムラサキシキブ、カマツカ、エノキ、ムクノキ、ヤマノイモ、シュンラン、ナガバジャノヒゲ、ヤブラン、タチツボスミレ、トボシガラ、ササガヤ、ミツバアケビ、ヤブコウジ、メアオスゲ等が確認された。草地性の種としては、チガヤ、メドハギ、アオスゲ、カラスビシャク、ネコハギ、ウマノスズクサ、ヒメスミレ、オカトラノオ、ニガナ、シロバナタンポポ等が確認された。

表 3-1(1) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				備考
			春季	夏季	秋季	早春季	
1	マツハラン	マツハラン		○			
2	ゼンマイ	ゼンマイ	○	○			
3	カニクサ	カニクサ	○	○	○	○	
4	イノモトソウ	イノモトソウ	○		○	○	
5	チャセンシダ	コハシノキシダ	○				
6		トラノオシダ		○	○	○	
7	メシダ	イヌワラビ	○	○	○		
8	オシダ	ナカハヤブソテツ	○	○	○	○	
9		ヘニシダ	○			○	
10	イチヨウ	イチヨウ	○				植栽
11	マツ	ヒマラヤスキ	○				植栽
12		アカマツ	○				植栽
13		タギョウショウ	○				植栽
14		クロマツ	○				植栽
15	マキ	イヌマキ	○				植栽
16	ヒノキ	ヒノキ	○				植栽
17		サワラ	○				植栽
18		ヒヨクヒバ	○				植栽
19		スキ	○				植栽
20		カイツカイブキ	○				植栽
21		メタセコイア			○		植栽
22		コノテカシワ	○				植栽
23		ヒメアスナロ	○				植栽
24	イチイ	カヤ	○				植栽
25	マツバサ	サネカズラ	○	○	○		
26	センリョウ	センリョウ	○				逸出
27	トクダミ	トクダミ	○	○	○		
28	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ		○			
29	モクレン	ユリノキ	○				植栽
30		コブシ	○				植栽
31	クスノキ	クスノキ	○				植栽
32		ゲッケイジュ	○				植栽
33		タブノキ	○	○	○		
34		シロタモ	○	○			
35	サトイモ	カラスビシャク	○		○		
36	ヤマノイモ	ヤマノイモ	○	○	○		
37		ナガイモ			○		帰化
38		オニトコロ	○	○			
39	サルトリイバラ	サルトリイバラ	○	○	○		
40	ラン	シュンラン	○				
41		ネジバナ	○				
42	アヤメ	ヒメヒオウギスイセン	○				帰化
43		オオニワセキショウ	○				帰化
44		ニワセキショウ	○	○			帰化
45	ヒガンバナ	ノビル	○		○	○	
46		ハナニラ				○	帰化
47		ヒガンバナ			○	○	帰化
48	クサスキカズラ	ハラン	○				植栽
49		ヤブラン		○		○	
50		ノシラン			○	○	

表 3-1 (2) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				備考
			春季	夏季	秋季	早春季	
51	クサスキカスラ	シヤノヒゲ	○			○	植栽
52		ナカバシヤノヒゲ	○		○	○	
53		オモト	○				逸出
54	ヤシ	シュロ	○	○	○		帰化
55	ツユクサ	マルハツユクサ		○			帰化
56		ツユクサ	○	○			
57		ミドリハカタカラクサ		○			帰化
58		ノハカタカラクサ	○	○			帰化
59	イクサ	クサイ	○	○			帰化
60		スズメノヤリ	○			○	
61	カヤツリクサ	マスクサ	○				
62		ナキリスゲ			○		
63		アオスゲ	○				
64		メアオスゲ	○				
65		オオアオスゲ	○				
66		アイノコシラスゲ	○				
67		カヤツリクサ		○			
68		ハマスゲ		○	○		
69	イネ	ヌカホ	○				
70		コヌカクサ	○	○			帰化
71		メリケンカルカヤ			○		帰化
72		ヒメコバンソウ	○				帰化
73		イヌムギ	○				帰化
74		キョウキシハ	○	○	○		
75		カモカヤ	○				帰化
76		メヒシハ		○	○		
77		コメヒシハ		○	○		
78		アキメヒシハ		○	○		
79		イヌヒエ		○			
80		オヒシハ		○			
81		タチカモシ	○				
82		アオカモシクサ	○				
83		カモシクサ	○				
84		カセクサ			○		
85		ニワホコリ		○			
86		トホシカスラ	○				
87		チカヤ	○				
88		ササカヤ	○	○	○		
89		オニウシノケクサ	○				帰化
90		ネズミホソムギ	○				帰化
91		ススキ		○	○		
92		チャボチヂミササ			○		
93		コチヂミササ			○		
94		ケチヂミササ	○	○	○		
95		シマスズメノヒエ		○	○		帰化
96		スズメノヒエ			○		
97		チカラシハ			○		
98		ヨシ	○	○			
99		モウソウチク	○	○			帰化
100		マダケ		○			帰化

表 3-1 (3) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				備考
			春季	夏季	秋季	早春季	
101	イネ	アズマネササ	○				
102		ミゾイチコツナギ				○	
103		ツルスズメノカタビラ	○			○	帰化
104		オオスズメノカタビラ	○				帰化
105		ヒエカエリ	○				
106		アキノエノコログサ		○	○		
107		キンエノコロ			○		
108		エノコログサ		○	○		
109		セイバンモロコシ		○	○		帰化
110		ネスミノオ		○	○		
111		ナギナタカヤ	○				帰化
112		シハ	○	○			植栽
113	ケン	ナガミヒナゲシ	○				帰化
114	アケビ	ゴヨウアケビ	○				
115		ミツハアケビ	○	○			
116		ムベ	○				逸出
117	ツツラフシ	アオツツラフシ	○	○			
118	メギ	ヒイラギナンテン	○				植栽
119		ナンテン	○				帰化
120	キンポウゲ	センニンソウ		○			
121	スズカケノキ	モミシハスズカケノキ	○				植栽
122	マンサク	トサミズキ	○				植栽
123		トキワマンサク	○				植栽
124	フトウ	ノフトウ	○	○			
125		ヤブカラシ	○	○	○		
126		ツタ	○	○	○		
127		エビヅル		○			
128	フウソウ	アメリカフウロ			○		帰化
129	アカハナ	メマツヨイグサ	○	○	○		帰化
130		ユウゲショウ	○		○		帰化
131		ヒルサギツキミソウ	○				帰化
132	フトモモ	マキハブラシノキ	○				植栽
133		ユーカリ	○				植栽
134	マメ	ヤブマメ	○	○			
135		ハナズオウ	○				植栽
136		ツルマメ	○				
137		ヤハズソウ	○	○	○		
138		メトハギ		○			
139		ネコハギ	○	○			
140		クズ	○	○	○		
141		タンキリマメ			○		
142		ハリエンジュ	○				帰化
143		クスタマツメクサ	○				帰化
144		コマツツメクサ	○				帰化
145		ムラサキツメクサ	○			○	帰化
146		シロツメクサ	○		○	○	帰化
147		ヤハズエントウ			○	○	
148		フジ	○		○		
149	バラ	ソメイヨシノ	○				植栽
150		ヒワ	○				帰化

表 3-1 (4) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				備考
			春季	夏季	秋季	早春季	
151	ハナ	ヤマフキ	○				植栽
152		カナメモチ	○				
153		ヘビイチゴ	○	○	○	○	
154		カマツカ	○	○			
155		トキワサンザシ		○			植栽
156		カサノテマリ	○				植栽
157		シャリンハイ	○				植栽、逸出
158		ノイハラ	○				
159		ナワシロイチゴ	○				
160		カシイチゴ	○	○	○		植栽
161		ユキヤナギ	○				帰化
162	ニレ	ケヤキ	○				植栽
163	アサ	ムクノキ	○		○		
164		エノキ	○				
165	クリ	ヒメコウゾ	○	○			
166		クワクサ		○	○		
167		ヤマクワ	○		○		
168	ウリ	カラスウリ		○			
169	フナ	スタシイ	○				植栽
170		マテハシイ	○				植栽
171		クヌギ	○	○			植栽
172		シラカシ	○				植栽
173		コナラ	○				
174	カバノキ	イヌシテ	○				
175	ニシキギ	ツルウメモドキ	○	○	○		
176		オニツルウメモドキ	○		○		
177		ニシキギ	○				植栽
178		マサキ	○				逸出
179	カタハミ	カタハミ	○			○	
180		アカカタハミ				○	
181		ムラサキカタハミ	○				帰化
182		オッタチカタハミ	○	○	○		帰化
183		オオキバナカタハミ				○	帰化
184	トウダイクサ	エノキクサ		○	○		
185		コニシクソ		○	○		帰化
186		アカメカシ	○		○		
187		ナンキンハゼ		○			帰化
188	オトギリソウ	コケオトギリ		○			
189		ヒヨウヤナギ	○				植栽
190	スミレ	タチツボスミレ	○			○	
191		ヒメスミレ		○			
192		ノジスミレ	○				
193	アブラナ	ナスナ	○			○	
194		ミチタネツケハナ				○	帰化
195		タネツケハナ	○				
196		イヌガラシ		○			
197		スカシタコボウ	○				
198	ウルシ	ヌルテ	○	○	○		
199		ハゼノキ	○	○	○		逸出
200	ムクロジ	トウカエテ	○				植栽

表 3-1 (5) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				備考
			春季	夏季	秋季	早春季	
201	ムクロジ	イロハモミジ	○	○			植栽
202		ウラゲ エンコウカエデ	○				植栽
203	センダングサ	センダングサ		○			
204	ミカン	ユズ	○				植栽
205		サンショウ	○				
206	コミカンソウ	ヒメミカンソウ		○			
207	アオイ	アオイ	○	○	○		植栽、逸出
208		フヨウ	○				植栽
209	タデ	ミズヒキ	○	○	○		
210		アレチギシギシ	○				帰化
211	ナデシコ	オランダミミナグサ	○			○	帰化
212		ツメクサ	○	○		○	
213		ミドリハコベ	○			○	
214	ヒユ	ヒナタイノコヅチ			○		
215		シロサ	○				帰化
216		コウシュウアリタソウ	○				帰化
217	スベリヒユ	スベリヒユ		○			
218	ハゼラン	ハゼラン	○				逸出
219	ヤマコホウ	ヨウシュヤマコホウ	○				帰化
220	オシロイバナ	オシロイバナ	○				帰化
221	ミズギ	ミズギ	○				
222		アメリカヤマホウシ	○				植栽
223	アジサイ	ウツギ	○				
224		アジサイ	○				植栽
225	ヌマミズギ	ハンカチノキ	○				植栽
226	モッコク	ヒサカキ	○				植栽
227		モッコク	○				植栽
228	カキノキ	カキノキ	○		○		植栽
229	サクラソウ	マンリョウ	○	○	○		
230		ヤブコウジ	○	○		○	
231		オカトラノオ	○	○	○		
232		コナスビ	○	○	○	○	
233	ツバキ	ヤブツバキ	○				植栽
234		チャノキ			○		植栽
235	ツツジ	トウタンツツジ	○				植栽
236		サツキ	○	○			植栽
237		オオムラサキ	○				植栽
238	アオイ	アオイ	○				植栽
239	アカネ	ヒメヨツバムクゲ	○	○			
240		ヤエムクゲ	○			○	
241		ヨツバムクゲ		○	○		
242		クチナシ	○				植栽
243		ヘクソカズ	○	○	○		
244	キョウチクトウ	ツルニチチソウ	○	○			帰化
245	ムラサキ	キュウリクサ	○	○	○	○	
246	ヒルカオ	コヒルカオ	○		○		
247		アオイコケ	○				
248	ナス	クコ	○				帰化
249		ワルナスビ	○	○	○		帰化
250		ヒヨドリシヨウゴ	○	○	○		

表 3-1 (6) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				備考
			春季	夏季	秋季	早春季	
251	モクセイ	シマトネリコ	○				逸出
252		ネズミモチ	○				植栽
253		トウネズミモチ	○		○		植栽、逸出
254		コミノネズミモチ	○		○		植栽
255		キンモクセイ	○				植栽
256		ギンモクセイ			○		逸出
257	オオハコ	オオハコ	○	○	○		
258		ヘラオオハコ	○	○	○	○	帰化
259		タチヌノフグリ	○			○	帰化
260		フサハソウ				○	帰化
261		ムシクサ				○	
262		オオイヌノフグリ	○		○	○	帰化
263	シソ	ムラサキシキブ	○		○		
264		クサキ	○	○	○		
265		トウバナ	○	○			
266		ヒメオドリコソウ			○	○	帰化
267		イヌコウシュ		○	○		
268		コハノタツナミ	○				
269	サキコケ	トキワハセ	○	○			
270	ハエトクソウ	ナガバハエトクソウ	○				
271	キリ	キリ	○				植栽
272	モチノキ	イヌツゲ	○				植栽
273		モチノキ	○				植栽
274		クロカネモチ			○		植栽
275	キク	オオブタクサ		○			帰化
276		ヨモギ	○		○	○	
277		アメリカセンダングサ	○				帰化
278		コセンダングサ	○	○	○		帰化
279		アメリカオニアザミ	○	○	○		帰化
280		ヒメジョオン	○	○	○	○	帰化
281		ヒメムカシヨモギ		○	○		帰化
282		ハルジョオン	○		○	○	帰化
283		オオアレチノギク		○			帰化
284		ハキタメギク	○				帰化
285		ウラボシコクサ	○	○	○	○	帰化
286		チチコクサモドキ	○				帰化
287		チチコクサ	○	○			
288		ブタナ	○	○	○		帰化
289		ニガナ	○			○	
290		オオシハバリ	○	○	○	○	
291		アキノノゲシ		○			
292		フキ	○			○	
293		コウゾリナ			○		
294		ノボロギク				○	帰化
295		セイタカアワダチソウ		○	○	○	帰化
296		オニノゲシ	○			○	帰化
297		ノゲシ	○		○	○	
298		シロハナタンポポ				○	
299		セイヨウタンポポ	○			○	帰化
300		アカオニタビラコ	○			○	

表 3-1 (7) 植物確認種一覧

No.	科名	種名	調査時期				備考
			春季	夏季	秋季	早春季	
301	キク	アオニタビラコ	○				
302		イリニガナ			○		
303	ガマズミ	ニリトコ	○		○	○	
304		サンコシユ	○				植栽
305	スイカズラ	ハナゾノツクハネツギ	○				植栽
306		スイカズラ	○	○			
307	ウコギ	タラノキ	○				
308		カクレミノ	○				植栽
309		ヤツテ	○				
310		キツタ	○				
311		ノチトメ	○	○	○		
312		オオチトメ		○	○		
313		チトメグサ		○			
314		ハリギリ	○	○	○		
315	トベラ	トベラ	○				植栽
316	セリ	アシタバ				○	植栽
317		ヤブニンジン	○				
318		オヤブシラミ	○				
合計	95科	318種	242種	117種	105種	54種	156種

- 注 1) 種名及び配列は、「米倉浩司・梶田忠（2003-）」「BG Plants 和名－学名インデックス」（YList）に準拠した。
2) 備考の項に表記した文字の意味は下記のとおりである。
帰化：自然植生でなく、人間の媒介により本来の自生地から他の地域に移動し、新しい土地で繁殖した植物。
植栽：観賞用などで明らかに植栽、栽培されている植物。
逸出：植栽、栽培されたものが、他の場所に逸出し、繁殖した植物。

(2) 重要な種

調査で確認された種について、表 2-2 に示す選定基準を基に抽出した結果、表 3-2 に示す 6 科 6 種の重要な種が確認された。

重要な植物の概況を表 3-3 に、確認位置を図 3-1 に示す。





なお、選定された重要な種のうち、アオイゴケについては、図表には示しているが、確認場所や生育状況から植栽由来の逸出であると判断したことから、重要な種としては取り扱わないこととした。

表 3-2 重要な植物一覧

No.	科名	種名	調査時期			選定基準			
			春季	夏季	秋季	①	②	③	④
1	マツハラン	マツハラン		○					A
2	チャセンシタ	コハノヒノキシタ	○						D
3	カヤツリグサ	オアオスケ	○						D
4	イネ	チャボチチミササ			○				D
5	ニシキギ	オニツルウメモドキ	○		○				B
6	ヒルガオ	アオイゴケ※	○						B
6科		6種	4種	1種	2種	0種	0種	0種	6種

- 注 1) 選定基準は以下のとおり。
① 「文化財保護法」（1950年 法律第214号）
② 「絶滅の恐れのある野生動植物種の保存に関する法律」（1992年 法律第75号）
③ 「日本の絶滅の恐れのある野生生物の種のリスト2020」（2020年 環境省）
④ 「千葉県レッドリスト 植物・菌類編（2023年改訂版）」（2023年 千葉県）
A：最重要保護生物 B：重要保護生物 D：一般保護生物
2) アオイゴケについては、逸出として取り扱うためリストには表示しているが重要な種には含めない。

表 3-3(1) 重要な植物の確認状況等

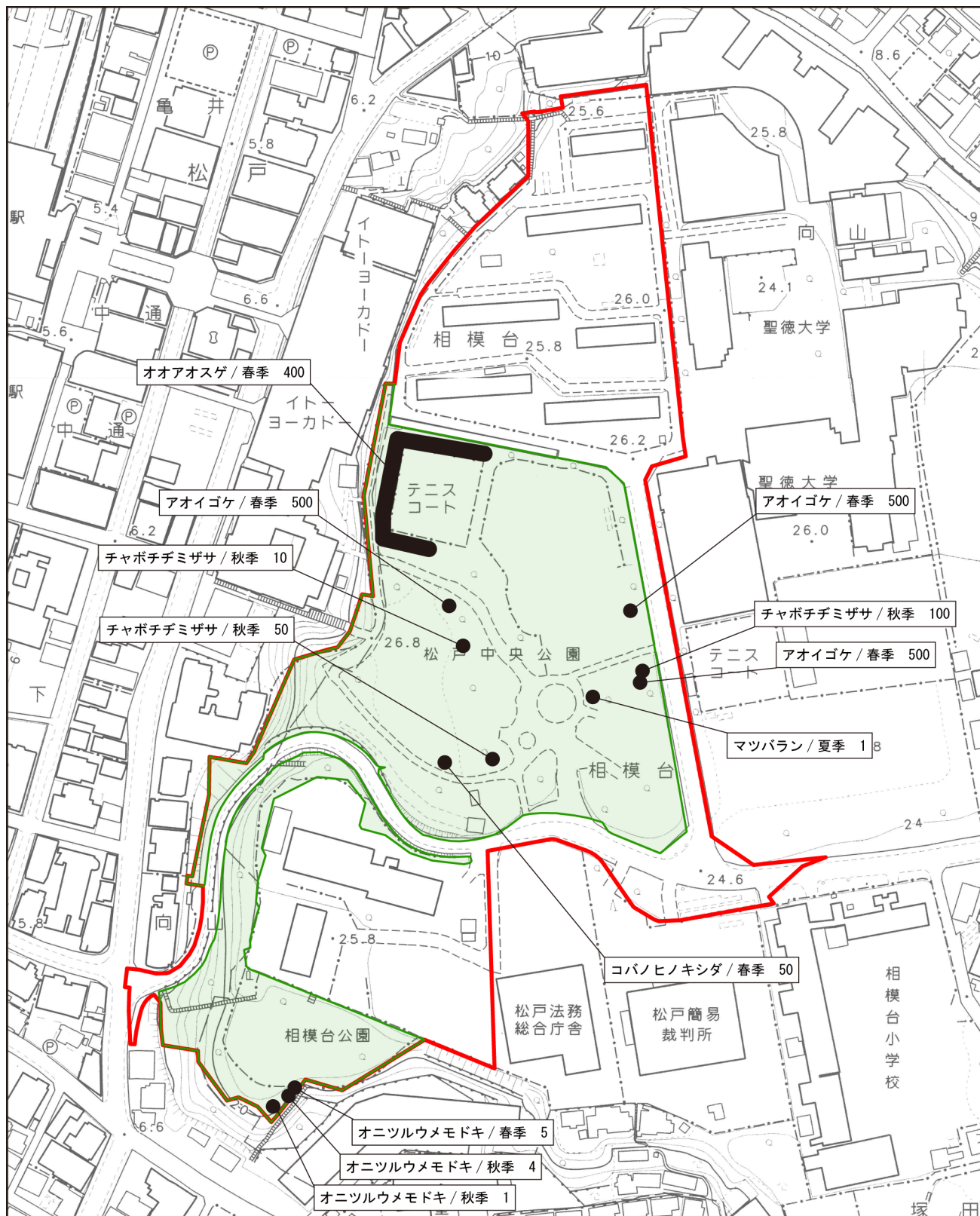
種 名		内 容	写 真
マツバラシ	一般生態	本州（宮城県、石川県以西の暖地）～琉球に分布する多年生シダ植物。暖地では樹幹に着生し、北の分布限界近くでは岩隙に生育する。高さは10～40cm、緑色で無毛、枝は稜があって、断面は三角形となる。	
	確認状況	植栽されたケヤキ高木の高さ 1.5m の又部に着生する 1 個体を確認した。	
	選定基準	④ A：最重要保護生物	
コバノヒノキシダ	一般生態	本州（東部南部以南）、四国、九州に分布する常緑性のシダ。 山地の岩場や路傍の石垣の間に生育する。葉柄は2～7cm、披針形の黒褐色で格子状の鱗片をつける。葉身は5～10cm、長楕円形で2～3回羽状に分かれる。	
	確認状況	松戸中央公園の高さ 1m 程度の石垣の隙間に生育する 50 個体を確認した。	
	選定基準	④ D：一般保護生物	
オオアオスゲ	一般生態	本州、四国、九州に分布する多年生草本。 森林性または草地性である。葉は単葉で互生である。種子散布は風媒で重力散布。苞鞘は2～3cmと長く、基部は糸状に分解する。	
	確認状況	松戸中央公園のテニスコート付近イヌシデ、クスノキ等植栽地に生育する 400 個体を確認した。	
	選定基準	④ D：一般保護生物	
チャボチヂミザサ	一般生態	本州（関東以西、栃木県、千葉県、神奈川県）、四国、九州、琉球に分布する。 多年草でやや湿った場所に生育する。花序には毛が少ないが、葉面には微毛のほか長毛が散生している。花期は8月から10月。	
	確認状況	松戸中央公園のサワラ植栽林、ヒマラヤスギ植栽林、イロハモミジ、エノキ植栽林の3か所で生育する 160 個体を確認した。	
	選定基準	④ D：一般保護生物	

注 1) 選定基準の丸数字は、表 2-2 に示す資料番号に基づく

表 3-3 (2) 重要な植物の確認状況等

種 名		内 容	写 真
オニツルウメモドキ	一般生態	<p>北海道、本州（東北地方から近畿地方）に分布する。</p> <p>雌雄異株の落葉性木本。葉は大きく、葉脈は裏面に隆起する。裏面の脈上に畝状の隆起があり、この翼の一部に波形刺状のささくれが出る。</p>	
	確認状況	<p>相模台公園南側のクロマツ植栽地に生育する個体を確認した。確認個体は春季5個体、秋季に5個体であるが、春季5個体のうち1個体は秋季には消失した。</p>	
	選定基準	④ B 重要保護生物	
アオイゴケ	一般生態	<p>本州西南部から沖縄に分布する。</p> <p>暖地の道端に生育する小型の多年草で、茎は細くて長く、地上を這う。葉身は腎心形で長さ5～15mm。両面に細い伏毛がある。4～8月、径3mmの黄色い花が咲く。花冠は5つに深く裂ける。</p> <p>半日陰の場所でも育つことから、近年シバに代わるグランドカバーとして外国産の近似種が用いられることがある。そのような栽培由来のものは各地に見られ、自生との異同の判断に問題を残している。</p>	
	確認状況	<p>松戸中央公園のユーカリ、カキノキ等植栽地、シバ地、マツ、ヒマラヤスギ植栽地の3か所で各500個体の群生が確認された。</p> <p>確認地点や群生の状況から植栽由来の逸出と判断した。</p>	
	選定基準	④ B 重要保護生物	

注 1) 選定基準の丸数字は、表 2-2 に示す資料番号に基づく



凡 例

- : 土地区画整理事業区域
- : 自然環境調査範囲
- : 確認地点 (種名 / 確認時期 個体数)



1:2,500

0 10 30 50 70 100m

図 3-1 重要な植物確認位置

1.2 植生

(1) 植生

植物群落及び土地利用区分を表 3-4 に、植生図を図 3-2 に示す。また、植生調査を行った地点の状況写真を表 3-5 に示す。

調査区域の植生の多くは植栽由来の樹林地や人為的な影響の強い草地である。

樹林地の高木林ではクスノキ、ケヤキ、ソメイヨシノ、サワラ、ユーカリノキ、スダジイ、クロマツ等が植栽されており、低木ではキンモクセイ、ツツジ類、トウネズミモチ、クチナシ等が植栽されている。

斜面部には二次的に成立したと考えられるムクノキーエノキ群落やアカメガシワ、ヤマグワ等の陽地性樹木が生育する先駆性低木群落が分布している。また、植栽由来の可能性があるが、管理されておらず、二次林の様相を示すコナラークヌギ群落、イヌシデ群落、スダジイ群落等が分布している。

草地では、松戸中央公園にはシバが優占する人工草地が分布し、相模台公園にはチガヤ群落やメリケンカルカヤ群落、アキメヒシバーオオバコ群落が分布している。

表 3-4 植物群落及び土地利用区分一覧

No.	区分	群落名
1	高木林	コナラークヌギ群落
2		イヌシデ群落
3		ムクノキーエノキ群落
4		スダジイ群落
5		クロマツ植林
6		モウソウチク林
7		植栽樹林群
8	低木林	先駆低木群落
9		アズマネザサ群落
10		植栽樹林群
11	草地	チガヤ群落
12		メリケンカルカヤ群落
13		アキメヒシバーオオバコ群落
14		シバ群落
15	その他土地利用	グラウンド、人工裸地
16		園路
17		構造物



凡 例

■ : 土地区画整理事業区域

■ : 自然環境調査範囲

植生凡例









- | | | |
|-------------|---------------|----------------|
| 1 コナラクスギ群落 | 7 植栽樹林群 | 13 アキメシバオオハコ群落 |
| 2 イヌシデ群落 | 8 先駆低木群落 | 14 シバ群落 |
| 3 ムクノキエノキ群落 | 9 アズマネザサ群落 | 15 グラウンド、人工裸地 |
| 4 スダジイ群落 | 10 植栽樹林群 | 16 園路 |
| 5 クロマツ植林 | 11 チガヤ群落 | 17 構造物 |
| 6 モウソウチク林 | 12 メリケンカルカヤ群落 | |

図 3-2 植生図

表 3-5 (1) 植物群落の状況

	
<p>No.1 コナラクヌギ群落</p>	<p>No.2 イヌシデ群落</p>
	
<p>No.3 ムクノキエノキ群落</p>	<p>No.4 スダジイ群落</p>
	
<p>No.5 クロマツ植林</p>	<p>No.6 モウソウチク林</p>
	
<p>No.7 植栽樹林群 (クスノキ、ケヤキ)</p>	<p>No.7 植栽樹林群 (サワラ、スダジイ)</p>

表 3-5 (2) 植物群落の状況

	
<p>No.7 植栽樹林群 (イロハモミジ、カキノキ)</p>	<p>No.8 先駆低木林</p>
	
<p>No.9 アズマネザサ群落</p>	<p>No.10 植栽樹林群 (低木)</p>
	
<p>No.11 チガヤ群落</p>	<p>No.12 メリケンカルカヤ群落</p>
	
<p>No.13 アキメヒシバーオオバコ群落</p>	<p>No.14 シバ群落</p>

(2) 大径木

大径木調査の結果、胸高直径 50cm 以上の樹木は、表 3-6 に示す 129 本が確認された。

確認された種のうち、クスノキが 20 本と最も多く、次いでソメイヨシノが 18 本、ケヤキが 16 本、ユーカリノキが 15 本、クロマツが 12 本、ヒマラヤスギが 11 本の順であった。

確認された大径木の多くは松戸中央公園、相模台公園内の植栽樹あり、特に松戸中央公園で多く確認された。公園以外の大径木は、斜面林で確認された 14 本であった。

大径木の調査結果を表 3-7 に、確認位置を図 3-3 に、各大径木の写真を表 3-8 に示す。

表 3-6 大径木本数

順位	種名	本数
1	クスノキ	20
2	ソメイヨシノ	18
3	ケヤキ	16
4	ユーカリノキ	15
5	クロマツ	12
6	ヒマラヤスギ	11
7	スダジイ	7
8	アカマツ	4
	エノキ	4
	ムクノキ	4
11	ユリノキ	3
12	イチョウ	2
	クヌギ	2
	シラカシ	2
	メタセコイア	2
	モミジバスズカケノキ	2
17	イヌシデ	1
	コナラ	1
	サワラ	1
	トウカエデ	1
	ハリギリ	1
合計		129

表 3-7(1) 大径木調査結果一覧

No.	種名	DBH (cm)	H (m)	備考
1	クスノキ	325	15	H1. 5m付近で分岐
2	クスノキ	221	18	
3	クスノキ	255	18	
4	ケヤキ	193	19	
5	ケヤキ	175	19	
6	クスノキ	271	18	
7	クスノキ	258	18	
8	ケヤキ	180	18	
9	クスノキ	224	15	
10	クスノキ	307	17	
11	ケヤキ	178	16	
12	ケヤキ	216	19	
13	ケヤキ	354	19	
14	クロマツ	201	16	
15	クスノキ	187	15	
16	メタセコイア	175	18	
17	メタセコイア	175	18	
18	ムクノキ	154	14	
19	クスノキ	215	15	
20	クスノキ	247	17	
21	ヒマラヤスギ	320	18	
22	ヒマラヤスギ	380	21	
23	ヒマラヤスギ	261	16	
24	スダジイ	312	18	
25	スダジイ	173	14	
26	クスギ	186	16	
27	ケヤキ	258	15	
28	ケヤキ	203	17	
29	ケヤキ	202	19	
30	ケヤキ	207	19	
31	クスノキ	249	13	
32	クスノキ	253	13	
33	モミジバスズカケノキ	265	17	分岐下のH1. 1mで計測
34	クスノキ	277	18	
35	イヌシデ	190	14	
36	クスノキ	206	20	
37	クスノキ	252	20	
38	クスノキ	245	20	
39	ケヤキ	180	18	
40	クスノキ	250	21	
41	クスノキ	156	13	
42	ケヤキ	394	22	
43	ヒマラヤスギ	270	21	
44	ヒマラヤスギ	260	23	
45	ヒマラヤスギ	323	23	
46	クスノキ	218	20	
47	サワラ	168	20	
48	ユーカリノキ	195	4	
49	クスノキ	160	14	
50	アカマツ	222	13	

表 3-7(2) 大径木調査結果一覧

No.	種名	DBH (cm)	H (m)	備考
51	クロマツ	179	15	
52	クロマツ	177	20	
53	アカマツ	164	13	
54	ヒマラヤスギ	285	23	
55	クロマツ	180	20	
56	トウカエデ	335	15	H0. 6mで測定
57	ケヤキ	231	15	
58	ソメイヨシノ	186	4	主幹下部で伐採、幹腐朽
59	ヒマラヤスギ	305	24	
60	ヒマラヤスギ	30	24	
61	ヒマラヤスギ	197	22	
62	ソメイヨシノ	159, 116	8	2又、主幹上部で伐採
63	ソメイヨシノ	176	7	主幹上部で伐採
64	ヒマラヤスギ	254	22	
65	ケヤキ	186	21	主幹に腐朽あり
66	ケヤキ	250	22	
67	コナラ	244	16	
68	アカマツ	162	12	
69	クロマツ	174	14	
70	イチョウ	221	14	
71	イチョウ	237	15	
72	エノキ	177	14	
73	ユーカリノキ	205	17	
74	ユーカリノキ	231	14	
75	モミジバスズカケノキ	226	18	
76	ユリノキ	168	15	
77	ユリノキ	162	15	
78	ユリノキ	167	15	
79	ユーカリノキ	225	19	
80	ユーカリノキ	165	19	
81	ユーカリノキ	210	19	
82	ユーカリノキ	150	18	
83	ユーカリノキ	162	16	
84	ユーカリノキ	190	20	
85	ユーカリノキ	165	16	
86	ユーカリノキ	211	20	
87	ユーカリノキ	198	22	
88	ユーカリノキ	164	14	下部で幹2本が合着
89	ユーカリノキ	173	20	
90	ユーカリノキ	250	20	
91	ムクノキ	185	18	
92	エノキ	175	13	
93	クロマツ	207	12	
94	ソメイヨシノ	172	11	
95	エノキ	160	14	
96	ケヤキ	209	15	
97	アカマツ	184	22	
98	クロマツ	227	24	
99	クロマツ	225	24	キヅタが多数、巻き付く
100	ムクノキ	210	20	キヅタが巻き付く

表 3-7(3) 大径木調査結果一覧

No.	種名	DBH(cm)	H (m)	備考
101	ムクノキ	169	19	
102	クロマツ	204	17	
103	ソメイヨシノ	161	7	主幹上部で伐採
104	エノキ	161	11	
105	ソメイヨシノ	235	8	主幹上部で伐採
106	ソメイヨシノ	293	11	
107	シラカシ	174	15	下部で幹2本が合着
108	ソメイヨシノ	267	10	
109	クヌギ	239	20	
110	ソメイヨシノ	258	14	
111	ソメイヨシノ	240	11	
112	クロマツ	227	21	
113	クロマツ	265	23	
114	シラカシ	212	14	
115	ソメイヨシノ	305	14	
116	ソメイヨシノ	197	9	
117	ソメイヨシノ	225	13	
118	ソメイヨシノ	179	13	
119	ソメイヨシノ	200	12	
120	ソメイヨシノ	154	9	
121	ソメイヨシノ	240	10	大枝伐採
122	ソメイヨシノ	204	8	主幹上部で伐採
123	スダジイ	292	10	下部で幹2本が合着、主幹中部で伐採
124	スダジイ	156	12	主幹中部で伐採
125	スダジイ	310	15	
126	スダジイ	185	16	
127	スダジイ	223	8	主幹下部で伐採
128	クロマツ	208	20	ツタが巻き付く
129	ハリギリ	198	22	

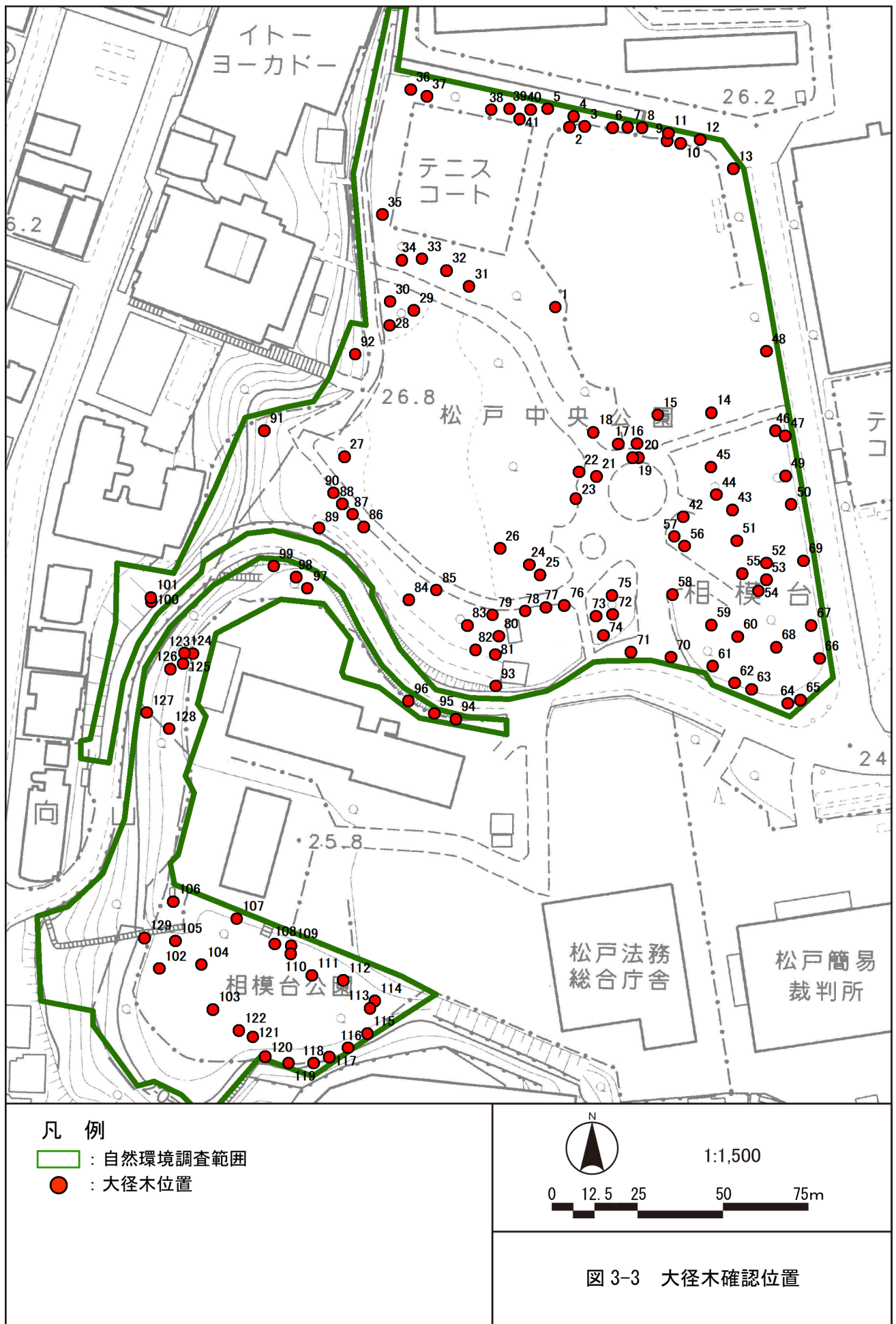


表 3-8(1) 大径木写真一覧

		
No.1 クスノキ	No.2 クスノキ	No.3 クスノキ
		
No.4 ケヤキ	No.5 ケヤキ	No.6 クスノキ
		
No.7 クスノキ	No.8 ケヤキ	No.9 クスノキ
		
No.10 クスノキ	No.11 ケヤキ	No.12 ケヤキ
		
No.13 ケヤキ	No.14 クロマツ	No.15 クスノキ

表 3-8(2) 大径木写真一覧

		
No.16 メタセコイア	No.17 メタセコイア	No.18 ムクノキ
		
No.19 クスノキ	No.20 クスノキ	No.21 ヒマラヤスギ
		
No.22 ヒマラヤスギ	No.23 ヒマラヤスギ	No.24 スダジイ
		
No.25 スダジイ	No.26 クヌギ	No.27 ケヤキ
		
No.28 ケヤキ	No.29 ケヤキ	No.30 ケヤキ

表 3-8 (3) 大径木写真一覧

		
No.31 クスノキ	No.32 クスノキ	No.33 モミジバスズカケノキ
		
No.34 クスノキ	No.35 イヌシデ	No.36 クスノキ
		
No.37 クスノキ	No.38 クスノキ	No.39 ケヤキ
		
No.40 クスノキ	No.41 クスノキ	No.42 ケヤキ
		
No.43 ヒマラヤスギ	No.44 ヒマラヤスギ	No.45 ヒマラヤスギ

表 3-8(4) 大径木写真一覧

		
No.46 クスノキ	No.47 サワラ	No.48 ユーカリノキ
		
No.49 クスノキ	No.50 アカマツ	No.51 クロマツ
		
No.52 クロマツ	No.53 アカマツ	No.54 ヒマラヤスギ
		
No.55 クロマツ	No.56 トウカエデ	No.57 ケヤキ
		
No.58 ソメイヨシノ	No.59 ヒマラヤスギ	No.60 ヒマラヤスギ

表 3-8 (5) 大径木写真一覧

		
No.61 ヒマラヤスギ	No.62 ソメイヨシノ	No.63 ソメイヨシノ
		
No.64 ヒマラヤスギ	No.65 ケヤキ	No.66 ケヤキ
		
No.67 コナラ	No.68 アカマツ	No.69 クロマツ
		
No.70 イチョウ	No.71 イチョウ	No.72 エノキ
		
No.73 ユーカリノキ	No.74 ユーカリノキ	No.75 モミジバスズカケノキ

表 3-8(6) 大径木写真一覧

		
No.76 ユリノキ	No.77 ユリノキ	No.78 ユリノキ
		
No.79 ユーカリノキ	No.80 ユーカリノキ	No.81 ユーカリノキ
		
No.82 ユーカリノキ	No.83 ユーカリノキ	No.84 ユーカリノキ
		
No.85 ユーカリノキ	No.86 ユーカリノキ	No.87 ユーカリノキ
		
No.88 ユーカリノキ	No.89 ユーカリノキ	No.90 ユーカリノキ










表 3-8 (7) 大径木写真一覧

		
No.91 ムクノキ	No.92 エノキ	No.93 クロマツ
		
No.94 ソメイヨシノ	No.95 エノキ	No.96 ケヤキ
		
No.97 アカマツ	No.98 クロマツ	No.99 クロマツ
		
No.100 ムクノキ	No.101 ムクノキ	No.102 クロマツ
		
No.103 ソメイヨシノ	No.104 エノキ	No.105 ソメイヨシノ

表 3-8(8) 大径木写真一覧

		
No.106 ソメイヨシノ	No.107 シラカシ	No.108 ソメイヨシノ
		
No.109 クヌギ	No.110 ソメイヨシノ	No.111 ソメイヨシノ
		
No.112 クロマツ	No.113 クロマツ	No.114 シラカシ
		
No.115 ソメイヨシノ	No.116 ソメイヨシノ	No.117 ソメイヨシノ
		
No.118 ソメイヨシノ	No.119 ソメイヨシノ	No.120 ソメイヨシノ

表 3-8 (9) 大径木写真一覧

		
No.121 ソメイヨシノ	No.122 ソメイヨシノ	No.123 スダジイ
		
No.124 スダジイ	No.125 スダジイ	No.126 スダジイ
		
No.127 スダジイ	No.128 クロマツ	No.129 ハリギリ

2. 動物

2.1 小動物

(1) 哺乳類

ア. 確認種

調査の結果、表 3-9 に示すとおり、1 目 3 科 3 種の哺乳類が確認された。確認された哺乳類のほとんどは、自動撮影により確認された。確認された種のうち、アライグマ、ハクビシンは外来種である。

調査範囲は、松戸中央公園、相模台公園及び旧法務省施設跡地によって占められ、比較的開けた環境である。また、一般人の立ち入りが制限されている旧法務省施設以外は絶えず人が利用していることから、特に日中は哺乳類が利用できる環境ではないと考えられる。哺乳類が利用しやすい樹林環境は、旧法務省施設跡地及び相模台公園周辺であるが、規模は小さいこと、樹林内は低木や草本が少なく、潜むことができるアズマネザサ等の藪は一部である。このため、行動範囲の広いアライグマやホンダヌキ等の中型哺乳類のみが確認され、モグラ類やネズミ類等は確認されなかったものと考えられる。

また、地域の住民によるネコへの給餌が調査範囲の複数個所でみられることから多数のネコが生息しており、これらのネコによる小型哺乳類や爬虫類等の捕食やホンダヌキ等の中型哺乳類との餌や生息場所の競合が発生している可能性がある。

表 3-9 哺乳類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期				備考
				春季	夏季	秋季	冬季	
1	ネコ	アライグマ	アライグマ	○				外来種
2		イヌ	ホンダヌキ	○	○		○	
3		ジャコウネコ	ハクビシン			○		外来種
合計	1 目	3 科	3 種	2 種	1 種	1 種	1 種	-

注 1) 種名及び配列は「日本産野生生物目録 脊椎動物編」（平成5年 環境庁）に準拠した。

2) 外来種の選定は、「千葉県の外来生物リスト2020年改訂版」に掲載されている種とした

(ア) 任意調査

哺乳類を対象とした任意調査の結果、表 3-10 に示すとおり、ホンダヌキ 1 種が確認された。

ホンダヌキは春季調査時にため糞が確認された。ホンダヌキは家族単位で決まった場所に糞を溜めるため糞をする習性があるが、確認されたため糞は古く、利用されなくなつてからしばらく経過したものであった。

表 3-10 哺乳類任意調査結果

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				春季	夏季	秋季	冬季
1	ネコ	イヌ	ホンダヌキ	○			
合計	1 目	1 科	1 種	1 種	0 種	0 種	0 種

注 1) 種名及び配列は「日本産野生生物目録 脊椎動物編」（平成5年 環境庁）に準拠し

(イ) 自動撮影

自動撮影調査の結果、表 3-11 に示すとおり、1 目 3 科 3 種の哺乳類が確認された。





松戸中央公園に設置した S-1 では夏季にホンダタヌキが、旧法務省施設に設置した S-2 では春季、冬季にホンダタヌキ、秋季にハクビシンが確認され、法務省施設付近の樹林に設置した S-3 では春季にアライグマが、春季、夏季にホンダタヌキが確認された。相模台公園付近に設置した S-4 では、夏季、冬季にホンダタヌキが確認された。

表 3-11 自動撮影による調査結果

No.	目名	科名	種名	S-1				S-2				S-3				S-4			
				春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季
1	ネコ	アライグマ	アライグマ									○							
2		イヌ	ホンダタヌキ		○			○			○	○	○				○		○
3		ジャコウネコ	ハクビシン							○									
合計	1 目	3 科	3 種	0 種	1 種	0 種	0 種	1 種	0 種	1 種	1 種	2 種	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種	0 種	1 種
				1 種				2 種				2 種				1 種			

注 1) 種名及び配列は「日本産野生生物目録 脊椎動物編」(平成5年 環境庁)に準拠した。

表 3-12 哺乳類確認状況

	
ホンダタヌキため糞 (5月29日)	アライグマ (5月24日 S-3)
	
ホンダタヌキ (1月25日 S-4)	ハクビシン (9月30日 S-2)

イ. 重要な種

調査で確認された種について、表 2-2 に示す選定基準を基に抽出した結果、重要な哺乳類は確認されなかった。

(2) 爬虫類・両生類

ア. 確認種

調査の結果、表 3-13 に示すとおり、1 目 4 科 5 種の爬虫類が確認された。確認種は爬虫類のみであり、両生類は確認されなかった。また、外来種は確認されなかった。

両生類は、生息や繁殖に水域が必要であることから、水域がない調査範囲では生息できないものと考えられる。

確認された種のうち、ニホンヤモリ、アオダイショウは松戸中央公園に植栽された樹木の洞で確認された。このうち、ニホンヤモリは卵が確認され、確認地点を繁殖地として利用していた。ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビは草地や林縁、ヒバカリは林縁で確認された。ただし、これらの爬虫類の確認個体数は多くはなかった。

表 3-13 爬虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期		
				春季	夏季	秋季
1	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ		○	○
2		トカゲ	ヒガシニホントカゲ	○	○	○
3		カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○	○
4		ナミヘビ	アオダイショウ		○	
5			ヒバカリ	○		○
合計	1 目	4 科	5 種	3 種	4 種	4 種

注 1) 種名及び配列は「日本産両生類・爬虫類標準和名」(2019年 日本爬虫両棲類学会)に準拠した。

イ. 重要な種

調査で確認された種について、表 2-2 に示す選定基準を基に抽出した結果、今回確認された 1 目 4 科 5 種すべてが重要な爬虫類であった。

重要な爬虫類の概況を表 3-15 に、確認位置を図 3-4 に示す。

表 3-14 重要な爬虫類一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			重要な種選定基準			
				春季	夏季	秋季	①	②	③	④
1	有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ		○	○				C
2		トカゲ	ヒガシニホントカゲ	○	○	○				B
3		カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○					C
4		ナミヘビ	アオダイショウ		○					C
5			ヒバカリ	○		○				C
合計	1 目	4 科	5 種	3 種	4 種	4 種	0 種	0 種	0 種	5 種

注 1) 種名及び配列は「日本産両生類・爬虫類標準和名」(2019年 日本爬虫両棲類学会)に準拠した。



2) 選定基準は以下のとおり。

- ①「文化財保護法」(1950年 法律第214号)
 - ②「絶滅の恐れのある野生動植物種の保存に関する法律」(1992年 法律第75号)
 - ③「日本の絶滅の恐れのある野生生物の種のリスト2020」(2020年 環境省)
 - ④「千葉県レッドリスト 動物編(2019年版)」(2019年 千葉県)
- B: 重要保護生物 C: 要保護生物

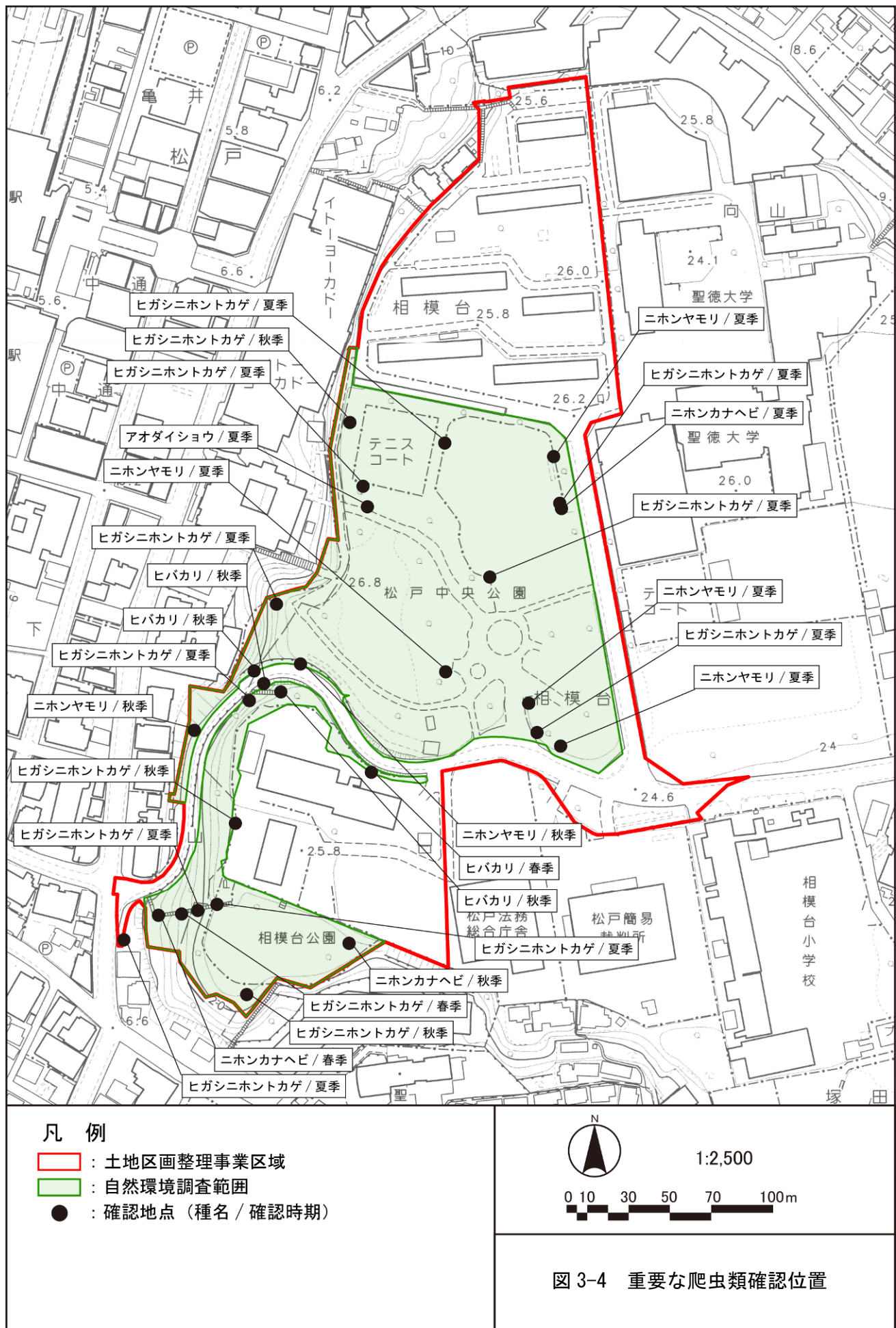
表 3-15 重要な爬虫類の確認状況

種 名		内 容	写 真
ニホンヤモリ	一般生態	<p>本州、四国、九州、対馬、屋久島に分布し、民家をはじめとした建築物に主に生息する。九州西部では海岸近くの岩場にもみられる。</p> <p>昆虫類をはじめとする小型の無脊椎動物を主に捕食する。産卵期は5月上旬～7月下旬である。</p>	
	確認状況	<p>夏季調査時に松戸中央公園の複数の植栽樹の洞内に潜む個体を確認した。また、夏季調査に、洞内に卵が確認され、洞内を繁殖場として利用していた。</p> <p>秋季調査時には、石垣で確認されたほか、路上で車に轢かれたと考えられる死体が確認された。</p>	
	選定基準	④ C：要保護生物	上段：個体 下段：卵
ヒガシニホントカゲ	一般生態	<p>北海道、国後島、および本州東部（伊豆半島を除く）に広く分布する。</p> <p>平地から山地の草地や石垣、庭先に生息し、石垣や崖の穴を巣穴とする。昆虫類や節足動物を捕食し、初夏に巣穴に5～16個卵を生み、雌が保護する。</p>	
	確認状況	<p>松戸中央公園や相模台公園、旧法務省施設付近の草地や林縁で複数個体を確認された。夏季調査時に確認された個体の多くは幼体であり、付近で繁殖しているものと考えられる。</p>	
	選定基準	④ B：重要保護生物	
ニホンカナヘビ	一般生態	<p>北海道、本州、四国、九州に分布する。</p> <p>平地から低山地の草原、やぶ、庭先等にすみ、木にも登る。昼行性で昆虫やクモを捕食し、春から夏にかけて草木の根元等に2～6個の卵を生む。</p>	
	確認状況	<p>松戸中央公園や相模台公園の草地や林縁で複数個体を確認された。確認数はヒガシニホントカゲと比較して少なかった。</p>	
	選定基準	④ C：要保護生物	

注 1) 選定基準の丸数字は、表 2-2 に示す資料番号に基づく

種 名		内 容	写 真
アオダイショウ	一般生態	北海道、本州、四国、九州、薩南諸島等に分布する日本固有種である。 平地から低山地の林や畑に生息し、人家に住み着くこともある。哺乳類、鳥類、両生類等を捕食し、夏季に石の下等に 3～17 個の卵を生む。	
	確認状況	夏季調査時に松戸中央公園の植栽樹の洞に潜む 1 個体を確認した。	
	選定基準	④ C: 要保護生物	
ヒバカリ	一般生態	本州、四国、九州に分布する日本固有種である。 低山地から山地の林内に生息し、水辺や多湿な場所を特に好む。よく水に入ってカエル、オタマジャクシ、ミミズ、小魚等を捕食し、夏季にコケや草の間等に 2～10 個の卵を生む。	
	確認状況	春季調査及び秋季調査時に旧法務省施設付近の林縁部で確認されたほか、秋季には路上で車に轢かれたと考えられる死体が確認された。	
	選定基準	④ C: 要保護生物	

注 1) 選定基準の丸数字は、表 2-2 に示す資料番号に基づく



2.2 鳥類

(1) 確認種

調査の結果、表 3-16 に示す 6 目 17 科 26 種の鳥類が確認された。

調査範囲内は、松戸中央公園、相模台公園等が存在し、周辺には西に江戸川河川敷、南に千葉大学松戸キャンパスの緑地等が存在するものの、それ以外は住宅地、商業施設等の市街地である。この環境を反映して、確認された鳥類のほとんどは、都市部で普通にみられる種であった。特にキジバト、カワラバト（ドバト）、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ハクセキレイはすべての調査時期で確認されており、これらの種が、調査範囲を代表する種であると考えられる。

その他としては、移動個体と考えられる水辺に生息するカワウやウミネコ、猛禽類であるチョウゲンボウ、近年都市部に進出している海岸性のイソヒヨドリ、渡りの途中に渡来する旅鳥であるエゾヒタキ、キビタキ、越冬のために渡来する冬鳥であるシロハラ、アカハラ、ツグミ等が確認された。

表 3-16 鳥類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	渡り 区分	調査時期			
					春季	夏季	秋季	冬季
1	ハト	ハト	キジバト	留鳥	○	○	○	○
2			カワラバト(ドバト)	留鳥	○	○	○	○
3	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥			○	
4	チドリ	カモメ	ウミネコ	留鳥	○			
5	キツキ	キツキ	コゲラ	留鳥	○		○	○
6	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	留鳥		○		
7	スズメ	カラス	オナガ	留鳥		○		○
8			ハシブトガラス	留鳥		○		
9			ハシブトガラス	留鳥	○	○	○	○
10		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○	○	○
11		ツバメ	ツバメ	夏鳥	○	○		
12		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○	○	○
13		オナガ	オナガ	留鳥	○		○	
14		メジロ	メジロ	留鳥	○	○	○	○
15		ムクドリ	ムクドリ	留鳥	○	○	○	
16		ヒタキ	シロハラ	冬鳥				○
17			アカハラ	冬鳥				○
18			ツグミ	冬鳥				○
19			イソヒヨドリ	旅鳥			○	
20			エゾヒタキ	旅鳥			○	
21			キビタキ	旅鳥			○	
22		スズメ	スズメ	留鳥	○	○	○	
23		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○	○	○
24		アトリ	カワラトリ	留鳥	○	○		
25		ホオジロ	ホオジロ	留鳥		○		
26			アオジ	冬鳥				○
合計	6目	17科	26種	-	14種	15種	15種	13種

注 1) 種名及び配列は「日本産鳥類目録 改訂第7版」(2012年 日本鳥学会)に準拠した。

2) 渡り区分は「湾岸都市の生態系と自然保護」(1996年 千葉市)を参考とした。

留鳥：一定の地域に年間を通じて生息する種

夏鳥：繁殖のために渡来する種

冬鳥：越冬のために渡来する種

旅鳥：繁殖や越冬のために中継地として通過する種

ア. ラインセンサス

ラインセンサス調査の結果、表 3-17 に示す 4 目 15 科 17 種が確認された。

季節別にみると、春季調査で 12 種 35 個体、夏季調査で 8 種 27 個体、秋季調査で 7 種 32 個体、冬季調査で 10 種 74 個体であり、種数は春季、冬季、夏季、秋季の順に多く、個体数は冬季、春季、秋季、夏季の順であった。

確認種の割合は、春季調査では、ハシブトガラスが最も多く 17.1% (6 個体) であり、次いでシジュウカラが 14.3% (5 個体)、ハクセキレイが 11.4% (4 個体) の順であった。夏季調査ではムクドリが 37.0% (10 個体) と最も多く、次いでカワラバト (ドバト) が 22.2% (6 個体)、ハシブトガラスとツバメが 11.1% (3 個体) の順であった。秋季調査では、ハシブトガラスが 37.5% (12 個体) と最も多く、次いでカワラバト (ドバト) が 31.9% (7 個体) シジュウカラが 18.8% (6 個体) の順であった。冬季調査ではカワラバト (ドバト) が 44.6% (33 個体) と最も多く、次いでヒヨドリが 21.6% (16 個体)、ハシブトガラスが 16.2% (12 個体) の順であった。

このように、季節的に変動はあるものの、カワラバト (ドバト)、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、ハクセキレイ等の都市部にも生息する留鳥の割合が高くなっている。

表 3-17 ラインセンサス調査結果

No.	目名	科名	種名	調査時期							
				春季		夏季		秋季		冬季	
				個体数	割合	個体数	割合	個体数	割合	個体数	割合
1	ハト	ハト	キンバト	1	2.9%	2	7.4%	2	6.3%	5	6.8%
2			カラバト(ドバト)			6	22.2%	7	21.9%	33	44.6%
3	カツオトリ	ウ	カラウ					1	3.1%		
4	キツキ	キツキ	コゲラ	1	2.9%					1	1.4%
5	スズメ	ガラス	ハシブトガラス			1	3.7%				
6			ハシブトガラス	6	17.1%	3	11.1%	12	37.5%	12	16.2%
7		シジュウカラ	シジュウカラ	5	14.3%			6	18.8%	2	2.7%
8		ツバメ	ツバメ	3	8.6%	3	11.1%				
9		ヒヨドリ	ヒヨドリ	3	8.6%			3	9.4%	16	21.6%
10		エナカ	エナカ	3	8.6%						
11		メジロ	メジロ	2	5.7%	1	3.7%	1	3.1%	2	2.7%
12		ムクドリ	ムクドリ	3	8.6%	10	37.0%				
13		ヒタキ	シロハラ							1	1.4%
14		スズメ	スズメ	3	8.6%	1	3.7%				
15		セキレイ	ハクセキレイ	4	11.4%					1	1.4%
16		アトリ	カラヒワ	1	2.9%						
17		ホオジロ	アオジ							1	1.4%
合計	4目	15科	17種	12種 35個体	100.0%	8種 27個体	100.0%	7種 32個体	100.0%	10種 74個体	100.0%

注 1) 種名及び配列は「日本産鳥類目録 改訂第7版」(2012年 日本鳥学会)に準拠した。

イ. 任意観察

任意調査の結果、表 3-18 に示す 6 目 17 科 25 種の鳥類が確認された。

ラインセンサス調査で未確認であった種としては、ウミネコ、チョウゲンボウ、オナガ、アカハラ、ツグミ、イソヒヨドリ、エゾビタキ、キビタキ、ホオジロの 9 種が追加で確認された。一方、ラインセンサスで未確認であった種は、ハシボソガラスのみであった。

表 3-18 任意観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期			
				春季	夏季	秋季	冬季
1	ハト	ハト	キジハト	○	○	○	○
2			カラハト(トハト)	○		○	
3	カツオドリ	ウ	カワウ				
4	チドリ	カモメ	ウミネコ	○			
5	キツツキ	キツツキ	コゲラ			○	○
6	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		○		
7	スズメ	カラス	オナガ		○		○
8			ハシボソガラス	○	○	○	○
9		シジュウカラ	シジュウカラ	○	○	○	○
10		ツハメ	ツハメ	○	○		
11		ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○	○	○
12		エナガ	エナガ			○	
13		メジロ	メジロ	○		○	○
14		ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	
15		ヒタキ	シロハラ				○
16			アカハラ				○
17			ツグミ				○
18			イソヒヨドリ			○	
19			エゾビタキ			○	
20			キビタキ			○	
21		スズメ	スズメ	○	○	○	
22		セキレイ	ハクセキレイ		○	○	○
23		アトリ	カラヒワ	○	○		
24		ホオジロ	ホオジロ		○		
25			アオジ				○
合計	6目	17科	25種	11種	12種	14種	12種

注 1) 種名及び配列は「日本産鳥類目録 改訂第7版」(2012年 日本鳥学会)に準拠した。

(2) 重要な種

調査で確認された種について、表 2-2 に示す選定基準を基に抽出した結果、表 3-19 に示す 1 目 2 科 2 種の重要な鳥類が確認された。

重要な鳥類の概況を表 3-20 に、確認位置を図 3-5 に示す。

表 3-19 重要な鳥類一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期				重要な種選定基準			
				春季	夏季	秋季	冬季	①	②	③	④
1	スズメ	ヒタキ	ヒタキ			○					A
2		ホオジロ	ホオジロ		○						C
合計	1 目	2 科	2 種	0 種	1 種	1 種	0 種	0 種	0 種	0 種	2 種

注 1) 種名及び配列は「日本産鳥類目録 改訂第7版」(2012年 日本鳥学会)に準拠した。

2) 選定基準は以下のとおり。

- ① 「文化財保護法」(1950年 法律第214号)
- ② 「絶滅の恐れのある野生動植物種の保存に関する法律」(1992年 法律第75号)
- ③ 「日本の絶滅の恐れのある野生生物の種のリスト2020」(2020年 環境省)
- ④ 「千葉県レッドリスト 動物編(2019年版)」(2019年 千葉県)

A: 最重要保護生物 C: 要保護生物

表 3-20 重要な鳥類の確認状況

種 名		内 容	写 真
キビタキ	一般生態	日本全国に夏鳥として分布し、低山から山地にかけての樹林地に生息する。繁殖は標高の高い所や、緯度の高い所であることから本報告書では旅鳥として取り扱った。 樹木の葉の裏面にいる虫や飛翔する昆虫を、飛びながら捕らえて採餌する。樹洞や樹木の裂け目等に枯葉や枯れ草で深い碗形の巣をつくる。	
	確認状況	秋季調査の任意観察時に松戸中央公園の植栽樹で1個体を確認した。	
	選定基準	④ A: 最重要保護生物	
ホオジロ	一般生態	屋久島以北の全土(笠原諸島や奄美大島以南、沖縄県除く)に留鳥として繁殖し、普通にみられる。 低木や藪の散在する開けた環境に生息する。疎林にも普通だが、広い草原や樹林内部にはみられない。地上で主に草本類の種子を採食する。林縁や低木林で繁殖する。	
	確認状況	夏季調査に松戸中央公園の植栽低木付近で1個体を確認した。	
	選定基準	④ C: 要保護生物	

注 1) 選定基準の丸数字は、表 2-2 に示す資料番号に基づく

2.3 昆虫類

(1) 確認種

調査の結果、表 3-21 に示す 12 目 100 科 347 種の昆虫類が確認された。

春季調査では 9 目 46 科 90 種、夏季調査では 11 目 74 科 199 種、秋季調査では 11 目 74 科 187 種が確認された。

表 3-21 昆虫類集計表

分類	春季		夏季		秋季		全体	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
1 トンボ目	1	1	3	10	3	7	4	12
2 ゴキブリ目	1	1	2	4	1	1	2	4
3 カマキリ目			1	1	1	3	1	3
4 バッタ目	2	3	7	11	8	17	8	22
5 ナナフシ目			1	1			1	1
6 ハサミムシ目			1	1	1	1	1	2
7 カメムシ目	11	22	18	49	17	37	22	78
8 アミメカゲロウ目	1	1			1	2	1	3
9 コウチュウ目	15	36	13	49	13	41	21	102
10 ハチ目	7	13	9	36	11	32	15	54
11 ハエ目	3	4	10	11	7	11	12	20
12 チョウ目	5	9	9	26	11	35	12	46
合計	46	90	74	199	74	187	100	347

注 1) 「～の一種」「～の数種」は同項目に同じ科、属がある場合は集計に含めない。

主要な目毎の確認概要を以下に、調査時期、調査方法別の確認種一覧表を表 3-24 に示す。

●トンボ目

4 科 12 種が確認された。確認された種は、ホソミイトトンボ、アジイトトンボ、ギンヤンマ等の池沼やその周辺にみられる種、シオカラトンボ、ナツアカネ等の水辺周辺の樹林や草地にみられる種であった。ただし、調査範囲内には水域がないことから、調査範囲内を主な生息地としているのではなく、周辺地域からの飛来もしくは成熟するまでの一時滞在の可能性が高い。

●バッタ目

8 科 22 種が確認された。確認された種は、ヤブキリ、クビキリギス等の背の高い草地を好む種、エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、トノサマバッタ、クルマバッタモドキ等の比較的乾燥した背の低い草地を好む種、アオマツムシ、カネタタキ等の樹林や林縁に生息する種であった。

●カメムシ目

22 科 78 種が確認された。確認された種は、ツマグロスケバ、ミドリトビイロウンカ等の草本につく種や、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、クヌギカメムシ、エサキモンキツノカメムシ、キマダラカメムシ等の樹林性の種、クモヘリカメムシ、ホシハラビロヘリカメムシ、マルカメムシ、チャバネアオカメムシ等の林縁や草地に生息する種であった。

●コウチュウ目

21 科 102 種が確認された。確認された種は、コクワガタ、カナブン、カブトムシ等の樹

液に集まる種や、ヒロオビジョウカイモドキ、ナナホシテントウ、ナミテントウ、ウリハムシ等の草地に生息する種、オオクチキムシ、ノコギリカミキリ等の朽木につく種、コフキコガネ、アオドウガネ、ヤマトタマムシ、クチブトコメツキ、ナガゴマフカミキリ等の樹皮や葉につく種、ツヤマルエンマムシ、センチコガネ等の腐肉や獣糞等に集まる種等であった。

●ハチ目

15 科 54 種が確認された。確認された種は、キオビツチバチ、アカガネコハナバチ、クマバチ、ニホンミツバチ等の訪花性の種、スズバチ、セグロアシナガバチ、オオスズメバチ等の肉食性の種、クロナガアリ、クロオオアリ、クロヤマアリ、トビイロケアリ等の地上徘徊性の種等であった。

●ハエ目

12 科 20 種が確認された。確認された種は、アオメアブ、シオヤアブ等の肉食性の種、ホソヒラタアブ、ホシツヤヒラタアブ等の訪花性の種、ツマグロキンバエ、センチニクバエ等の腐肉や獣糞等に集まる種等であった。

●チョウ目

12 科 46 種が確認された。確認された種は、ホタルガ、マメノメイガ、オオミズアオ、カノコガ、オオウンモンクチバ等の蛾類や、アオスジアゲハ、キタキチョウ、ムラサキシジミ、コミズジ、イチモンジセセリ等のチョウ類等であった。また、外来種であるアカホシゴマダラが確認されている。

●その他の目

その他の目として、5 目 6 科 13 種が確認された。確認種は、朽木や落葉下でみられるクロゴキブリ、モリチャバネゴキブリ等のゴキブリ目 (2 科 4 種)、昆虫食で林縁や草地でみられるハラビロカマキリ、コカマキリ等のカマキリ目 (1 科 3 種)、樹上性で植物に擬態するエダナナフシ等のナナフシ目 (1 科 1 種)、岩や倒木、朽木、落葉下でみられるハマベハサミムシ等のハサミムシ目 (1 科 2 種)、林縁や草地でみられるクサカゲロウ等のアミメカゲロウ目 (1 科 3 種) であった。

ア. 任意採集

任意採集の結果、表 3-22 に示す 12 目 97 科 328 種の昆虫類が確認された。

春季調査では 9 目 44 科 83 種、夏季調査では 10 目 71 科 187 種、秋季調査では 10 目 71 科 179 種が確認されており、夏季調査で最も多くの種が確認され、春季が最も少なくなっている。

表 3-22 任意採集による確認種集計表

分類		春季		夏季		秋季		全体	
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
1	トンボ目	1	1	3	10	3	7	4	12
2	ゴキブリ目	1	1	2	4	1	1	2	4
3	カマキリ目			1	1	1	3	1	3
4	バッタ目	2	3	5	10	8	17	8	22
5	ナナフシ目			1	1			1	1
6	ハサミムシ目					1	1	1	1
7	カメムシ目	11	22	18	48	17	37	22	77
8	アミメカゲロウ目	1	1			1	2	1	3
9	コウチュウ目	13	31	13	43	10	37	18	89
10	ハチ目	7	11	9	33	11	28	15	48
11	ハエ目	3	4	10	11	7	11	12	21
12	チョウ目	5	9	9	26	11	35	12	47
合計		44	83	71	187	71	179	97	328

注 1) 「～の一種」「～の数種」は同項目に同じ科、属がある場合は集計しない。

イ. バイトトラップ

バイトトラップの結果、表 3-23 に示す 6 目 14 科 33 種の昆虫類が確認された。

春季調査では 2 目 6 科 10 種、夏季調査では 5 目 8 科 19 種、秋季調査では 3 目 6 科 15 種が確認され、任意採集と同様、夏季調査で最も多くの種が確認され、春季が最も少なくなっている。

分類群別では、ハチ目が 1 科 15 種で最も多く、次いでコウチュウ目が 8 科 13 種であり、その他の目は 1～2 種であった。ハチ目はアリ類で占められており、オオハリアリ、テラニシシリアゲアリ、ヒメアリ、クロヤマアリ、サクラアリ等が確認されている。コウチュウ目は、ツヤマルエンマムシ、アカバハネカクシ、センチコガネ等の主に腐肉や獣糞に集まる種や、アカマダラケシキスイ等の腐った果実に集まる種その他、地上徘徊性の偶発的に転落した種が確認されている。

表 3-23 バイトトラップによる確認種集計表

分類		春季						夏季						秋季						全体	
		B-1		B-2		合計		B-1		B-2		合計		B-1		B-2		合計			
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
1	バッタ目									1	1	1	1							1	1
2	ハサミムシ目									1	1	1	1							1	1
3	カメムシ目							1	1	2	2	2	2							2	2
4	コウチュウ目	1	1	4	4	5	5	3	4	3	4	3	6	3	3	2	2	4	4	8	13
5	ハチ目	1	5	1	3	1	5	1	7	1	5	1	9	1	5	1	7	1	10	1	15
6	ハエ目													1	1			1	1	1	1
合計		2	6	5	7	6	10	5	12	8	13	8	19	5	9	3	9	6	15	14	33

注 1) 「～の一種」「～の数種」は同項目に同じ科、属がある場合は集計しない。

表 3-24 (1) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	春季			夏季			秋季		
				任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ	
					B-1	B-2		B-1	B-2		B-1	B-2
1	トンボ	イトトンボ	ホソミイトトンボ							○		
2			アジイトトンボ				○					
3		アオイトトンボ	オオアオイトトンボ				○					
4			ヤンマ	○						○		
5		トンボ	ショウジョウトンボ				○					
6			シオカラトンボ				○			○		
7			オオシオカラトンボ				○					
8			ウスハネキトンボ				○			○		
9			チョウトンボ				○					
10			ナツアカネ				○			○		
11			アキアカネ				○			○		
12			ノシメトンボ				○			○		
13	ゴキブリ	ゴキブリ	クロゴキブリ				○					
14			ヤマトゴキブリ				○					
15		チャハネゴキブリ	チャハネゴキブリ	○			○					
16			モリチャハネゴキブリ				○			○		
17	カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ							○		
18			コカマキリ							○		
19			オオカマキリ				○			○		
20	ハッタ	キリギリス	ヤブキリ				○					
21			クビキリギリス							○		
22			ホシササキリ							○		
23		コオロギ	エンマコオロギ							○		
24			ハラオカメコオロギ							○		
25			ミツカドコオロギ							○		
			コオロギ科の一種					○	○			
26		マツムシ	アオマツムシ							○		
27			スズムシ							○		
28		ヒバリモドキ	マダラスズ							○		
29			シハスズ							○		
30		カネタタキ	カネタタキ				○			○		
31		ヒシハッタ	ハラヒシハッタ				○			○		
32			モリヒシハッタ				○					
33		オンブハッタ	オンブハッタ	○			○			○		
34		ハッタ	ツチイナゴ	○			○					
35			ショウリョウハッタ				○			○		
36			ショウリョウハッタモドキ				○					
37			ヒナハッタ	○						○		
38			マダラハッタ				○					
39			トノサマハッタ							○		
40			クルマハッタモドキ				○			○		
41			イボハッタ							○		
42		ナナフシ	エダナナフシ				○					
43	ハサミムシ	ハサミムシ	ハマハサミムシ							○		
44			コヒゲシロハサミムシ						○			
45	カメムシ	テングスケバ	ツマケロスケバ				○					
46			ミドリグンハイウンカ				○					
47			オスグンハイウンカ							○		
48			トビイログンハイウンカ				○					
49		アオハハゴロモ	アオハハゴロモ				○			○		

表 3-24(2) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	春季			夏季			秋季		
				任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ	
					B-1	B-2		B-1	B-2		B-1	B-2
50	カメムシ	ハゴロモ	スケハ [○] ハゴ [○] ロモ				○					
51			ベ [○] ツコウハゴ [○] ロモ							○		
52			アミカ [○] サハゴ [○] ロモ				○			○		
53		セミ	クマセ [○] ミ				○					
54			アブ [○] ラセ [○] ミ				○					
55			ツクツクホ [○] ウシ							○		
56			ミンミンセ [○] ミ				○					
57			ニイニイセ [○] ミ				○					
58			ヒク [○] ラン				○					
59		ヨコハ [○] イ	クロヒラタヨコハ [○] イ	○								
60			クロスジ [○] ホソサジ [○] ヨコハ [○] イ	○								
61			ヒメヨコハ [○] イ亜科の一種				○					
62			トハ [○] ヨコハ [○] イ							○		
63			クロミヤクイチモンジ [○] ヨコハ [○] イ							○		
64			ツマク [○] ロヨコハ [○] イ				○					
65			シロミヤクイチモンジ [○] ヨコハ [○] イ				○					
			ヨコハ [○] イ科の一種							●		
66		カスミカメムシ	ナカク [○] ロカスミカメ				○					
67			メンカ [○] タカスミカメ	○								
68			ハキ [○] メンカ [○] タカスミカメ				○					
69			コアオカスミカメ				○					
70			アカスジ [○] カスミカメ	○			○					
71			ウスモンミト [○] リカスミカメ							○		
72			ベ [○] ニヒク [○] ホソミト [○] リカスミカメ				○					
73			イネホソミト [○] リカスミカメ							○		
74			ヒョウタンカスミカメ				○					
75			ヒメウスイロホソカスミカメ							○		
76			クンハ [○] イカスミカメ							○		
77		マキハ [○] サシカ [○] メ	ハネナカ [○] マキハ [○] サシカ [○] メ							○		
78			コハ [○] ネマキハ [○] サシカ [○] メ							○		
79		クンハ [○] イムシ	ヤブ [○] カ [○] ラシク [○] ンハ [○] イ				○			○		
80			ヘクソカス [○] ラク [○] ンハ [○] イ				○			○		
81			ツツジ [○] クンハ [○] イ	○						○		
82			シキミク [○] ンハ [○] イ							○		
83			アワタ [○] チソウク [○] ンハ [○] イ				○					
84			ブ [○] ラタナスク [○] ンハ [○] イ							○		
85		サシカ [○] メ	アカサシカ [○] メ	○								
86		ナカ [○] カメムシ	ヒメナカ [○] カメムシ	○			○			○		
87			コハ [○] ネナカ [○] カメムシ							○		
88			ヒメオオメカメムシ	○						○		
89			ヒョウタンナカ [○] カメムシ				○					
90			オオモンシロナカ [○] カメムシ						○			
91			サビ [○] ヒョウタンナカ [○] カメムシ							○		
92			モンシロナカ [○] カメムシ				○					
93			ヨツボ [○] シヒョウタンナカ [○] カメムシ				○			○		
94			キハ [○] リヒョウタンナカ [○] カメムシ							○		
			ナカ [○] カメムシ科の一種							●		
95		メタ [○] カナカ [○] カメムシ	メタ [○] カナカ [○] カメムシ				○			○		
96		ホシカメムシ	フタモンホシカメムシ							○		
97		オオホシカメムシ	ヒメホシカメムシ	○								

表 3-24 (3) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	春季			夏季			秋季		
				任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ	
					B-1	B-2		B-1	B-2		B-1	B-2
98	カメムシ	オオホシカメムシ	オオホシカメムシ	○						○		
99		ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ							○		
100			ホソヘリカメムシ				○			○		
101		ヘリカメムシ	ホソヘリカメムシ				○					
102			ハリカメムシ	○			○					
103			ハラビ ^ろ ヘリカメムシ	○			○					
104			ホシハラビ ^ろ ヘリカメムシ				○			○		
105			オオツマキヘリカメムシ							○		
106			ツマキヘリカメムシ	○			○					
107		ヒメヘリカメムシ	アカヒメヘリカメムシ				○					
108			フ ^チ ヒケ ^{ヘリ} カメムシ	○			○					
109		クヌギ ^{カメムシ}	ヘラクヌギ ^{カメムシ}				○					
110			クヌギ ^{カメムシ}				○					
111		マルカメムシ	マルカメムシ	○			○			○		
112		ツチカメムシ	ツチカメムシ				○	○	○	○		
113		カメムシ	アカスジ ^{カメムシ}				○					
114			ウス ^ラ カメムシ	○								
115			キマダ ^ラ カメムシ	○			○			○		
116			シラホシカメムシ	○			○					
117			ツヤアオカメムシ	○			○			○		
118			クサギ ^{カメムシ}				○					
119			ナカホ ^シ カメムシ							○		
120			イチモンジ ^{カメムシ}	○			○					
121			チャハ ^ネ アオカメムシ	○			○			○		
122		ツノカメムシ	エサキモンキツノカメムシ	○			○					
123	アミメカゲ ^{ロウ}	クサカゲ ^{ロウ}	クサカゲ ^{ロウ}	○								
124			ヨツホ ^シ クサカゲ ^{ロウ}							○		
125			カオマダ ^ラ クサカゲ ^{ロウ}							○		
126	コウチュウ	オサムシ	オオマルカ ^{タコ} ミムシ								○	
127		エンマムシ	ツギマルエンマムシ			○						
128		ハネカクシ	アオハ ^{アリカ} タハネカクシ	○								
129			ハネナカ ^{クビ} ホ ^ソ ハネカクシ							○		
130			アカハ ^ハ ネカクシ		○							
131		クワカ ^{タムシ}	コクワカ ^タ				○					
132		センチコカ ^ネ	センチコカ ^ネ								○	
133		コカ ^{ネムシ}	フトカト ^{エンマ} コカ ^ネ					○				
134			ムラサキエンマコカ ^ネ					○	○			
135			コフキコカ ^ネ				○					
136			ヒ ^{ロウト} コカ ^ネ							○		
137			アオト ^{ウカ} ネ				○			○		
138			ト ^{ウカ} ネフ ^{イブ} イ				○					
139			セマダ ^ラ コカ ^ネ	○			○					
140			マメコカ ^ネ				○			○		
141			コアオハナムク ^リ							○		
142			シラホシハナムク ^リ				○					
143			シロテンハナムク ^リ	○			○					
144			カナブン				○			○		
145			クロカナブン				○					
146			アオカナブン				○					
147			カブ ^{トムシ}				○					

表 3-24 (4) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	春季		夏季		秋季	
				任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ	
					B-1	B-2		B-1	B-2
148	コウチュウ	タマムシ	ヤマトタマムシ				○		
149			エゾナカタマムシ	○					
150			ケヤキナカタマムシ	○					
151			ムネアカチビナカホソタマムシ	○					
152			クスノチビタマムシ					○	
153			ナミカチビタマムシ					○	
154			ヤナギチビタマムシ	○			○		
155			アカカネチビタマムシ				○		
156		コメツキムシ	ヒゲコメツキ	○					
157			マダラチビコメツキ					○	
158			サビキコリ				○		
159			ヒメサビキコリ				○		
160			クチブトコメツキ	○					
161			アカアシオオクシコメツキ			○			
162			クシコメツキ	○			○		
163			オオハナコメツキ	○					
164		ジヨウカイホソ	セホシジヨウカイ	○					
165		カツオブシムシ	ヒメマルカツオブシムシ	○					
166		ジヨウカイモトキ	ヒロオビシヨウカイモトキ					○	
167		ケシキスイ	ナミヒラタケシキスイ	○					
168			アカマダラケシキスイ			○		○	
169			マルキマダラケシキスイ				○	○	○
170			ヨツボシケシキスイ				○		
			ケシキスイ科の一種						●
171		テントウムシダマシ	ヨツボシテントウダマシ				○		
172		テントウムシ	フタホシテントウ				○		
173			クロヘリヒメテントウ					○	
174			ヨツボシテントウ					○	
175			ヘタリアテントウ				○		
176			ムーアシロホシテントウ					○	
177			ナナホシテントウ	○			○	○	
178			ナミテントウ	○			○	○	
179			キイロテントウ				○		
180			ヒメカメノコテントウ					○	
181			ニジュウヤホシテントウ				○	○	
182			ムネアカオオクロテントウ					○	
183		ハナノミ	ハナノミ科の一種	○					
184		ハムシダマシ	ニセハムシダマシ				○		
185			ナカハムシダマシ					○	
186		クチキムシ	オオクチキムシ				○		
187			クリイロクチキムシ	○					
188			フナカタクチキムシ	○					
189		コミムシダマシ	スナゴミムシダマシ					○	
190			ユミアシコミムシダマシ				○	○	
191		カミキリムシ	ウスバカミキリ				○		
192			ノコギリカミキリ				○		
193			ナカゴマフカミキリ				○		
194			カローケシカミキリ	○					
195		ハムシ	ルリクビホソハムシ				○		
196			キオビクビホソハムシ					○	

表 3-24 (5) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	春季			夏季			秋季		
				任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ	
					B-1	B-2		B-1	B-2		B-1	B-2
197	コウチュウ	ハムシ	アカクビ ^ホ ソハムシ							○		
198			セスジ ^{クビ} ホ ^ホ ソハムシ							○		
199			イネクビ ^ホ ソハムシ							○		
200			ヨツモンクロツツハムシ	○								
201			ムシクソハムシ				○					
202			アオハ ^ネ サルハムシ	○								
203			ヒメキハ ^ネ サルハムシ	○						○		
204			ムネアカキハ ^ネ サルハムシ							○		
205			ト ^ウ カ ^ネ サルハムシ				○			○		
206			コカ ^{タル} リハムシ	○								
207			キクビ ^ア オハムシ	○								
208			ウリハムシ				○			○		
209			クロウリハムシ	○						○		
210			ニレハムシ							○		
211			ツブ ^ノ ミハムシ				○					
212			ヒメデントウ ^ノ ミハムシ				○			○		
213			クロボ ^シ トビ ^ハ ムシ				○			○		
214			ヨモキ ^ト ビ ^ハ ムシ				○			○		
215			ルリマル ^ノ ミハムシ							○		
216			ナトビ ^ハ ムシ							○		
217			クロトゲ ^ハ ムシ				○					
218		ゾ ^ウ ムシ	トゲ ^ア シ ^ゾ ウムシ	○								
219			ミト ^リ クチフ ^ト ゾ ^ウ ムシ	○								
220			カシワクチフ ^ト ゾ ^ウ ムシ	○			○					
221			ヒレルクチフ ^ト ゾ ^ウ ムシ							○		
222			ホソヒメカタゾ ^ウ ムシ			○						
223			スグ ^リ ゾ ^ウ ムシ	○						○		
224			サビ ^ヒ ョウタンゾ ^ウ ムシ				○					
225			クロクチフ ^ト サルゾ ^ウ ムシ	○								
226			アシナガ ^オ ニゾ ^ウ ムシ				○					
227			ハマヘ ^キ クイゾ ^ウ ムシ									○
228	ハチ	ミフシハ ^ハ チ	チュウレンシ ^ハ チ	○								
229		ハ ^ハ チ	セグ ^ロ カフ ^ラ ハ ^ハ チ							○		
230			ニホンカフ ^ラ ハ ^ハ チ							○		
231		コマユハ ^チ	コマユハ ^チ 科の一種							○		
232		ヒメハ ^チ	ヒメハ ^チ 科の一種				○			○		
233		ツチハ ^チ	アカスジ ^ツ チハ ^チ				○					
234			キオビ ^ツ チハ ^チ				○					
235			オオモンツチハ ^チ				○					
236			ヒメハラナカ ^ツ チハ ^チ				○			○		
237			オオハラナカ ^ツ チハ ^チ	○								
238			キンケハラナカ ^ツ チハ ^チ							○		
239		アリ	オオハリアリ				○			○		○
240			イトウカキ ^ハ ラアリ									○
241			テラニシリアケ ^{アリ}				○	○		○		
242			ハリフ ^ト シリアケ ^{アリ}							○		
243			キイロシリアケ ^{アリ}				○			○	○	
244			ムネホ ^ソ アリ							○		
245			ハリナカ ^ム ネホ ^ソ アリ				○			○		
246			クロナカ ^{アリ}							○		

表 3-24(6) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	春季			夏季			秋季		
				任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ	
					B-1	B-2		B-1	B-2		B-1	B-2
247	ハチ	アリ	ヒメアリ						○			
248			キイロヒメアリ									○
249			アス ^マ オオス ^マ アリ		○	○	○		○	○		○
250			アミメアリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
251			ウロコアリ					○				○
252			トビ ^イ ロシワアリ				○			○		
253			クロオアリ	○			○	○		○		
254			ウメツオオアリ				○			○		
255			ヨツボ ^シ オアリ				○					
256			クロヤマアリ	○	○		○	○	○	○	○	
257			クロクサアリ		○	○						
258			トビ ^イ ロケアリ	○	○		○	○	○	○		
259			アメイロアリ					○			○	○
260			サクラアリ							○	○	
261		ギンク ^チ ハ ^チ	ギンク ^チ ハ ^チ 科の一種							○		
262		ヘ ^ッ コウハ ^チ	コトケ ^ア シヘ ^ッ コウ							○		
263		ト ^ロ ハ ^チ	オオフタオヒ ^ト ロハ ^チ 本土亜種	○								
264			ムモンツクリハ ^チ				○					
265			スス ^ハ チ				○			○		
266		スス ^メ ハ ^チ	セク ^ロ アシナ ^ガ ハ ^チ				○					
267			コカ ^タ スス ^メ ハ ^チ 本土亜種				○					
268			オオスス ^メ ハ ^チ	○			○			○		
269			キイロスス ^メ ハ ^チ	○			○			○		
270			ヒメスス ^メ ハ ^チ				○					
271		アナハ ^チ	コクロアナハ ^チ				○					
272			サトジ ^ガ ハ ^チ				○					
			アナハ ^チ 科の一種				●					
273		コハナハ ^チ	アカ ^ネ コハナハ ^チ				○			○		
274			Lasioglossum属の一種				○					
			コハナハ ^チ 科の一種							●		
275		ヒメハナハ ^チ	クロツヤヒメハナハ ^チ	○								
276		ハキリハ ^チ	トモンハナハ ^チ				○					
277			オオハキリハ ^チ							○		
278			ヤノカ ^リ ハナハ ^チ				○					
279			クス ^ハ キリハ ^チ				○					
280		ミツハ ^チ	クマハ ^チ	○			○					
281			ニホンミツハ ^チ				○					
282	ハエ	カ ^カ ンホ ^ホ	マダ ^ラ カ ^カ ンホ ^ホ	○								
283		ツリアブ ^ブ	クロハ ^ネ ツリアブ ^ブ				○					
284		ムシヒキアブ ^ブ	アオメアブ ^ブ				○					
285			シオヤアブ ^ブ				○					
286		アシナカ ^ハ エ	アシナカ ^ハ キンハ ^エ				○					
			アシナカ ^ハ エ科の一種							○		
287		ハナアブ ^ブ	ホソヒラタアブ ^ブ							○		
288			ナミホシヒラタアブ ^ブ							○		
289			ホソヒメヒラタアブ ^ブ							○		
290			ホシツヤヒラタアブ ^ブ	○								
291			シママメヒラタアブ ^ブ							○		
292			ハイジ ^マ ハナアブ ^ブ							○		
293			アシア ^ト ハナアブ ^ブ	○								

表 3-24(7) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	春季		夏季		秋季	
				任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ	
					B-1	B-2		B-1	B-2
294	ハエ	ハナアブ	Xylota属の一種				○		
			ハナアブ科の一種					●	
295		ミハエ	ミハエ科の一種				○		
296		ショウシヨウハエ	ショウシヨウハエ科の一種				○	○	
297		フコハエ	フコハエ科の一種					○	
298		イエハエ	イエハエ科の一種				○		
299		クロハエ	ツマグロキンハエ				○		
			クロハエ科の一種				●	○	
			クロハエ科の数種					●	
300		ニクハエ	センチュウハエ	○					
			ニクハエ科の一種				○	○	
301		ヤトリハエ	アカヒョウタンハリハエ				○		
			ヤトリハエ科の一種					○	
302	チョウ	マダラカ	ホタルカ					○	
303		ツトカ	モンキクロノメカ				○		
304			シロオビノメカ					○	
305			マメノメカ					○	
306			マエアカシノメカ					○	
307			アメリカビシノメカ				○		
308			ベニフキノメカ				○		
309		アゲハチョウ	ジャコウアゲハ日本本土亜種				○		
310			アオスジアゲハ	○			○	○	
311			モンキアゲハ					○	
312			キアゲハ				○		
313			ナカサキアゲハ				○	○	
314			クロアゲハ日本本土亜種	○			○		
315			アゲハ	○			○	○	
316		シロチョウ	キタキチョウ	○			○	○	
317			モンキチョウ					○	
318			モンシロチョウ	○			○	○	
319		シジミチョウ	ウラギンシジミ				○	○	
320			ベニシジミ	○			○		
321			ムラサキツバメ				○	○	
322			ムラサキシジミ				○	○	
323			ルリシジミ				○		
324			ツバメシジミ					○	
325			ウラナシジミ					○	
326			ヤマトシジミ本土亜種	○			○	○	
327		タテハチョウ	ルリタテハ日本本土亜種					○	
328			キタテハ				○	○	
329			ツマグロヒョウモン				○	○	
330			コムシジ				○	○	
331			アカホシコマダラ*	○			○	○	
332			コマダラチョウ					○	
333			ヒカゲチョウ					○	
334		セセリチョウ	イチモンジセセリ				○	○	
335			コチャハネセセリ					○	
336		シャクガ	ウスミドリナミシャク					○	
337			ツマシロエダシャク				○	○	
338		ヤマユカ	オオミスアオ				○		

表 3-24 (8) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	春季			夏季			秋季		
				任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ		任意 採集	ベイト トラップ	
					B-1	B-2		B-1	B-2		B-1	B-2
339	チョウ	スズメカ	トビイロスズメ				○					
340			ホシメボウジヤク							○		
341			セスジスズメ				○					
342		カノコカ	カノコカ	○						○		
343		ヤカ	アヤホソヤカ							○		
344			オオウモンクチハ							○		
345			ナキシマアツハ							○		
346			ヒメクビクワロクチハ							○		
347			ヒメエグリハ							○		
合計	12目	100科	347種	83種	6種	7種	187種	13種	13種	179種	9種	9種

注 1) 種名及び配列は「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（1995年 環境庁）に準拠した。

2) 「～の一種」「～の数種」は同項目に同じ科、属がある場合は集計しない。

集計しない全体での種はNo.を空白に、項目別の種は「●」で示した。

3) No.331のアカホシゴマダラ*は大陸系の外来種である。

(2) 重要な種

調査で確認された種について、表 2-2 に示す選定基準を基に抽出した結果、表 3-25 に示す 3 目 4 科 4 種の重要な昆虫類が確認された。

重要な昆虫類の概況を表 3-26 に、確認位置を図 3-6 に示す。

表 3-25 重要な昆虫類一覧

No.	目名	科名	種名	調査時期			重要な種選定基準			
				春季	夏季	秋季	①	②	③	④
1	トンボ	イトトンボ	ホソイトトンボ			○				B
2		トンボ	チョウトンボ		○					D
3	ハチ	ハキリハチ	クズハキリハチ		○				DD	
4	チョウ	タテハチョウ	ゴマダラチョウ			○				C
合計	3目	4科	4種	0種	2種	2種	0種	0種	1種	3種

注 1) 種名及び配列は「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」（1995年 環境庁）に準拠した。

2) 選定基準は以下のとおり。

①「文化財保護法」（1950年 法律第214号）

②「絶滅の恐れのある野生動植物種の保存に関する法律」（1992年 法律第75号）

③「日本の絶滅の恐れのある野生生物の種のリスト2020」（2020年 環境省）

DD：情報不足

④「千葉県レッドリスト 動物編（2019年版）」（2019年 千葉県）


B：重要保護生物 C：要保護生物 D：一般保護生物

表 3-26 重要な昆虫類の確認状況等

種 名		内 容	写 真
ホソミイトトンボ	一般生態	<p>日本特産種で新潟県及び栃木県より鹿児島県にいたる本州、四国、九州に分布する。</p> <p>主に平地や丘陵地の挺水植物が繁茂した池沼や湿地の滞水、水田などに生息し、秋に羽化して越冬する個体群（越冬型）と、初夏に羽化して秋までみられる個体群（夏型）がある。越冬型は、羽化後水辺を離れて雑木林などへ移動し、未成熟のままで冬を越す。</p>	
	確認状況	<p>秋季調査時に旧法務省施設付近の林縁部で1個体を確認した。本種の生息環境である水域は周辺にみられないこと、確認時期が秋季であることから、確認個体も越冬のための移動個体の可能性がある。</p>	
	選定基準	④ B：重要保護生物	
チヨウトンボ	一般生態	<p>本州、四国、九州に分布し、離島にも産する。関東以北では少なく、東北地方北部では産地が著しく限られる。</p> <p>主に平地や丘陵地の挺水植物の繁茂する腐植栄養型の池沼や溝川に生息し、しばしば海岸そばの汽水が入る沼沢にも生息する。成虫は6月上旬から出現し、9月末までみられる。</p>	
	確認状況	<p>夏季調査時に樹冠付近を飛翔する1個体を確認した。本種の生息環境は周辺にみられないこと、羽化した個体は繁殖地から離れて林に移動する習性があることから、確認個体も移動個体の可能性がある。</p>	
	選定基準	④ D：一般保護生物	
クズハキリバチ	一般生態	<p>本州、九州、対馬、屋久島、種子島に分布する。</p> <p>老木の洞や竹筒、カミキリの脱出坑などに営巣するハキリバチ。育房の仕切りにクズの葉を使う。ただし、花粉はクズの花から採取するかどうかは不明。成虫は雌が8月から9月、雄が7月から8月末に出現する。年1化性。</p>	
	確認状況	<p>夏季調査時に、旧法務省施設付近の林縁部で1個体を確認した。確認時の林縁にはクズが繁茂していた。</p>	
	選定基準	③ DD：情報不足	

注 1) 選定基準の丸数字は、表 2-2 に示す資料番号に基づく

表 3-26(2) 重要な昆虫類の確認状況等

種 名	内 容	写 真
ゴマダラチョウ	<p>一般生態</p> <p>北海道、本州、四国、九州、対馬に分布する。</p> <p>樹上や樹冠を旋回して飛翔し、好んでクヌギやヤナギ類等の樹液に集まる。普通年 2～3 回の発生で、5 月から 6 月、7 月から 8 月、9 月から 10 月に発生することが多い。幼虫の食樹はエノキ。</p>	
	<p>確認状況</p> <p>秋季調査時に、旧法務省施設付近の樹上や樹冠を旋回して飛翔する 1 個体を確認した。</p>	
	<p>選定基準</p> <p>④ C：要保護生物</p>	

注 1) 選定基準の丸数字は、表 2-2 に示す資料番号に基づく

